

小邑紗希

PRESENTED BY KOMURASAKI



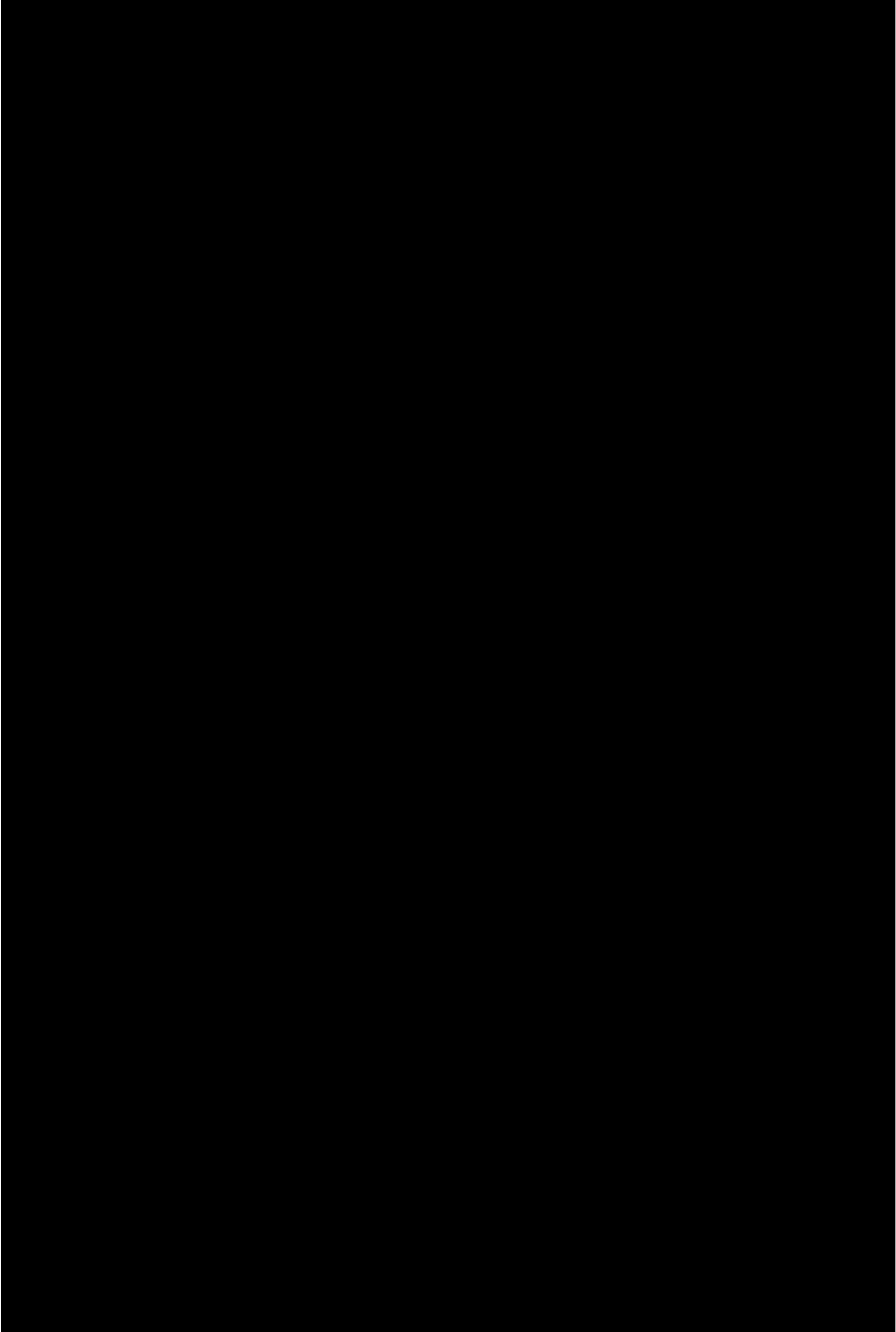
KAIOSHASHA
COMICS



華

-Karei-

隷

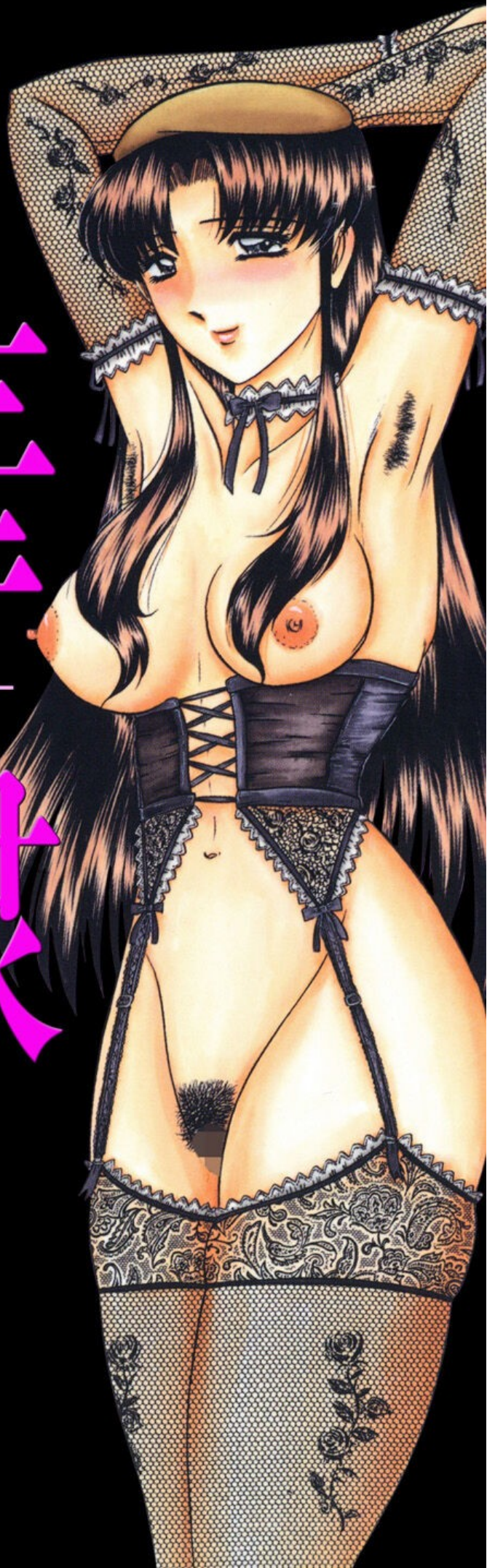




華隷

-Karei-

小邑紗希





CONTENTS

会長

会長裏日誌

はたらくお兄ちゃん

通い妻隷嬢

通い妻の日常

邂逅

それぞれの日常

良妻の末裔

良妻の末裔 特別編



六条院和子は
完璧だ——

完璧な美貌と気高さを
あわせもった——

六条院和子



皆の憧れのまとの
最強の生徒会長だ

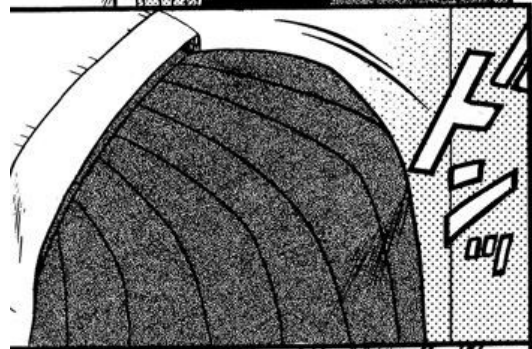
二郎——
書類整理を
手伝いなさい

昼休み中に終わら
せるから急ぎなさい

二郎

会長

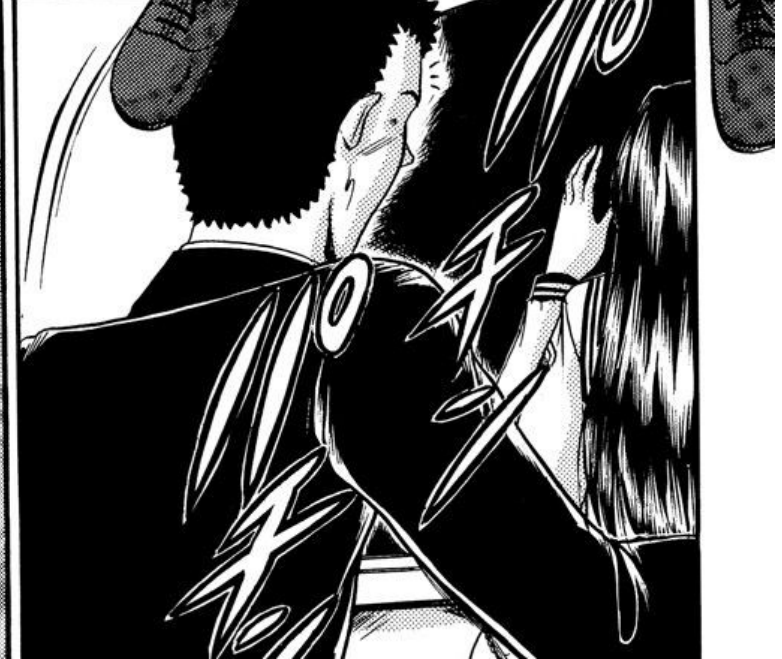
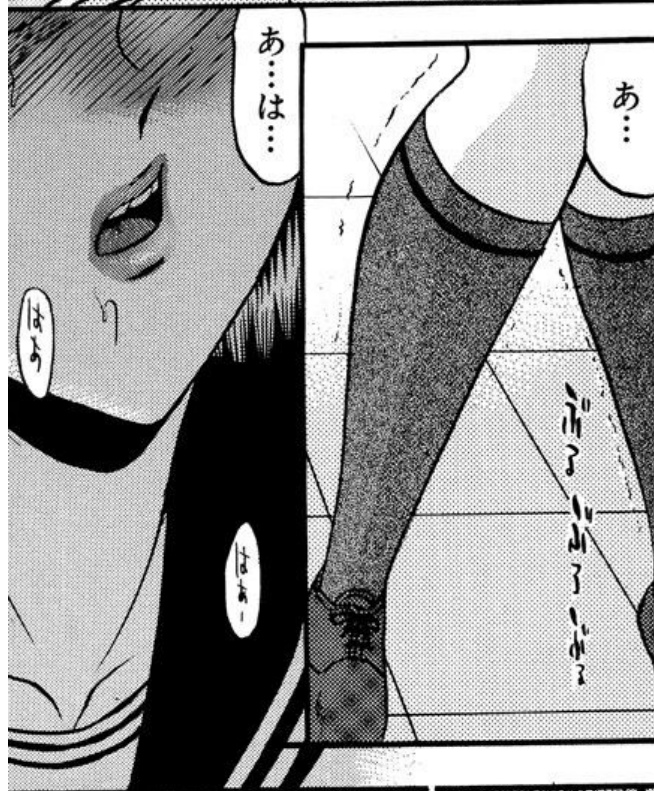
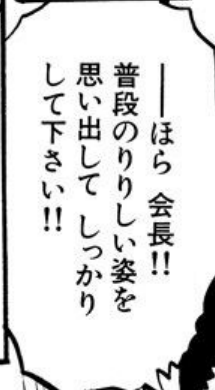


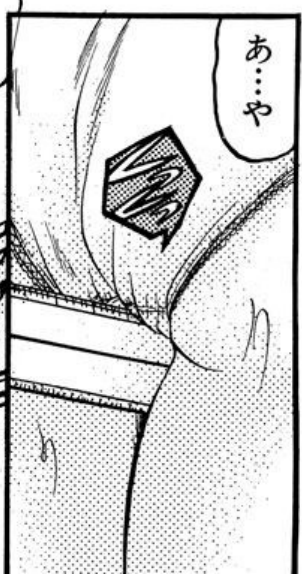
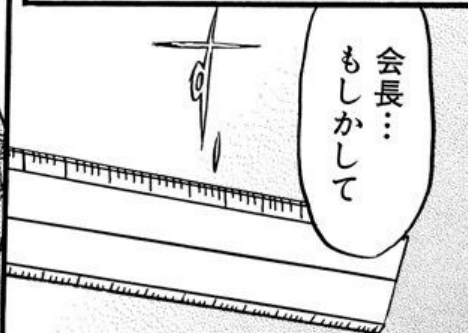


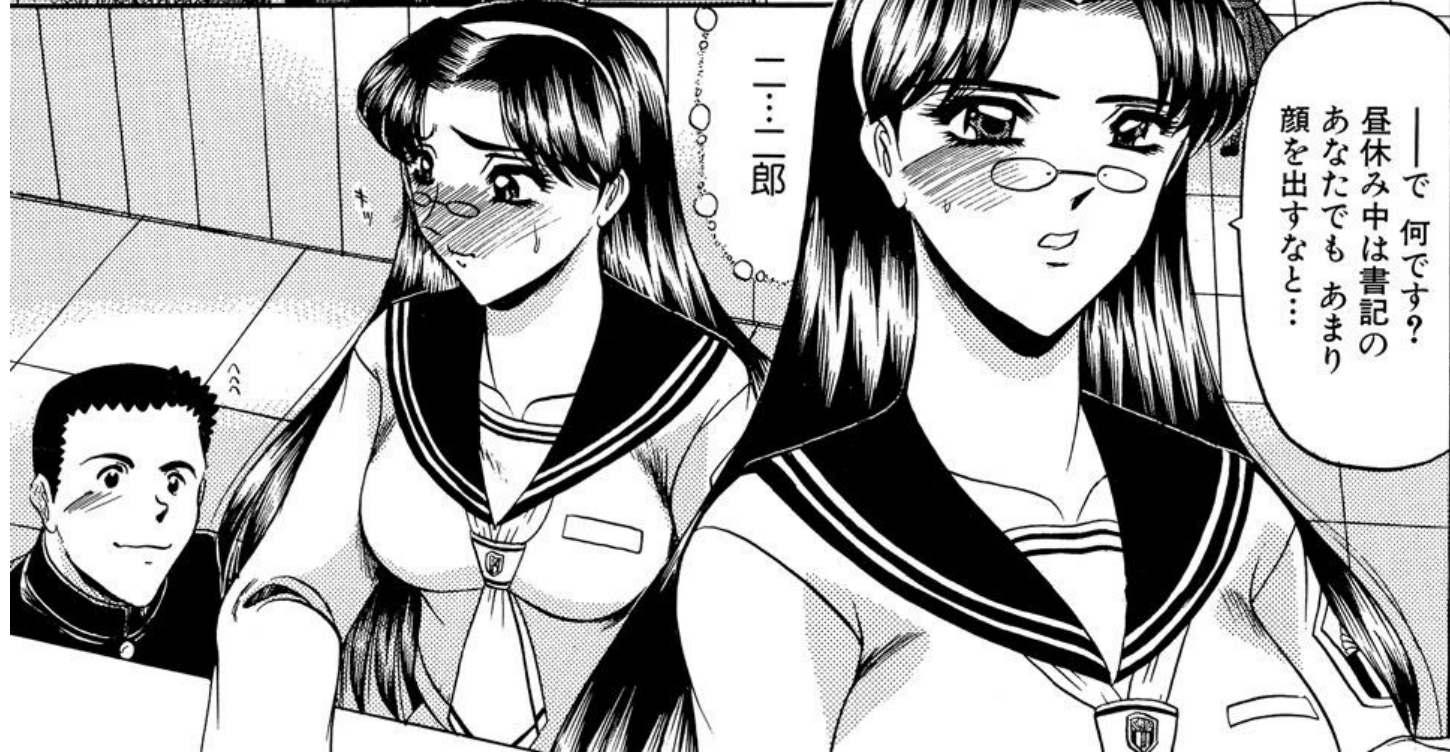
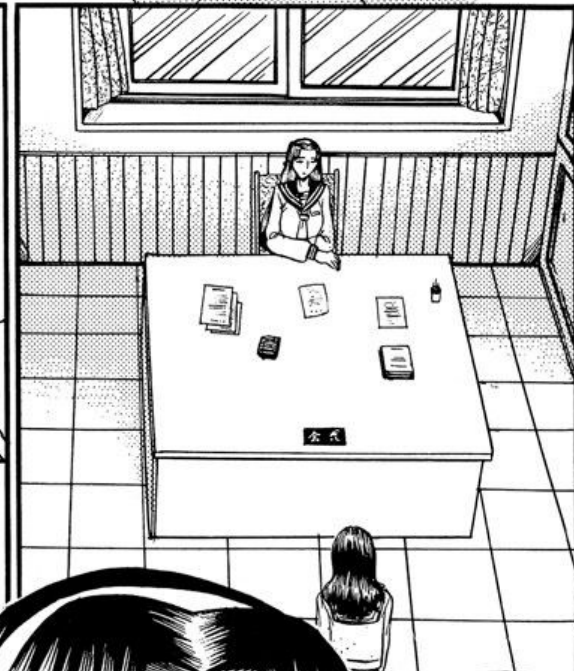












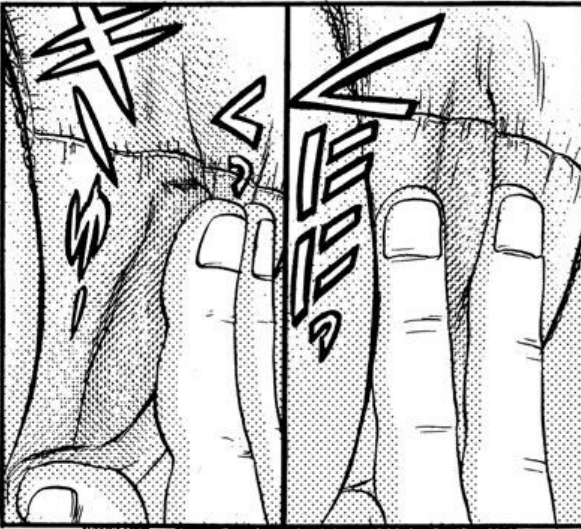
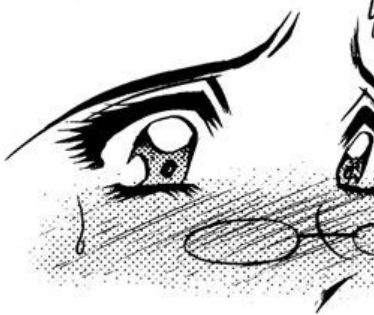


え...と 天文研の
存続について
なんですけど...



えっと 報告
いいですか
会長

え、あ...いいわ
してちょうだい



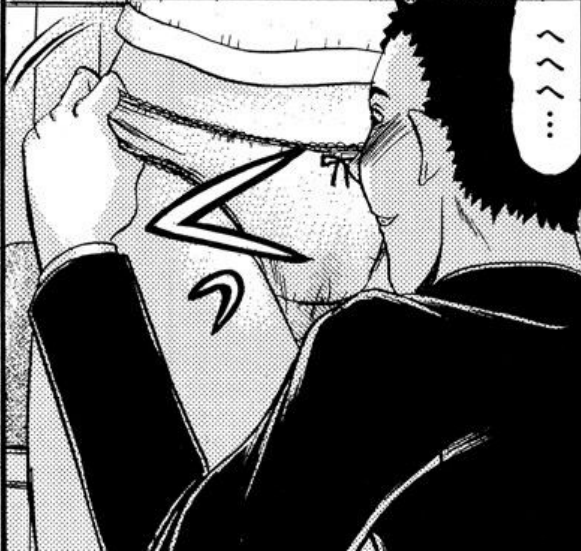
あ...二...郎
だめ...



はあ

う...

はあ

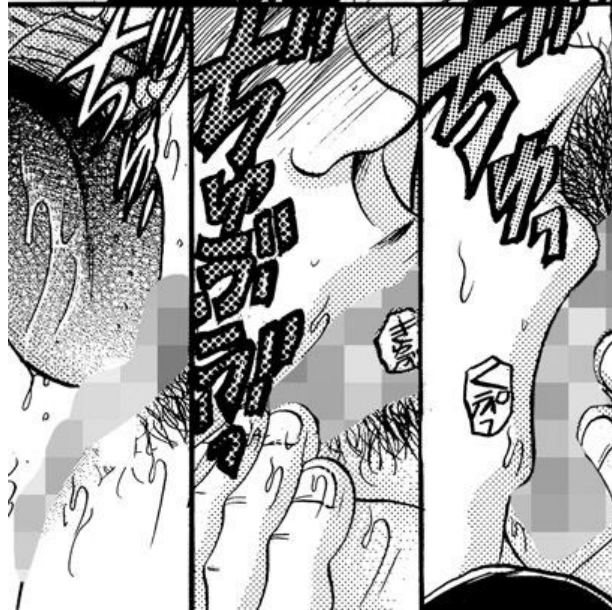
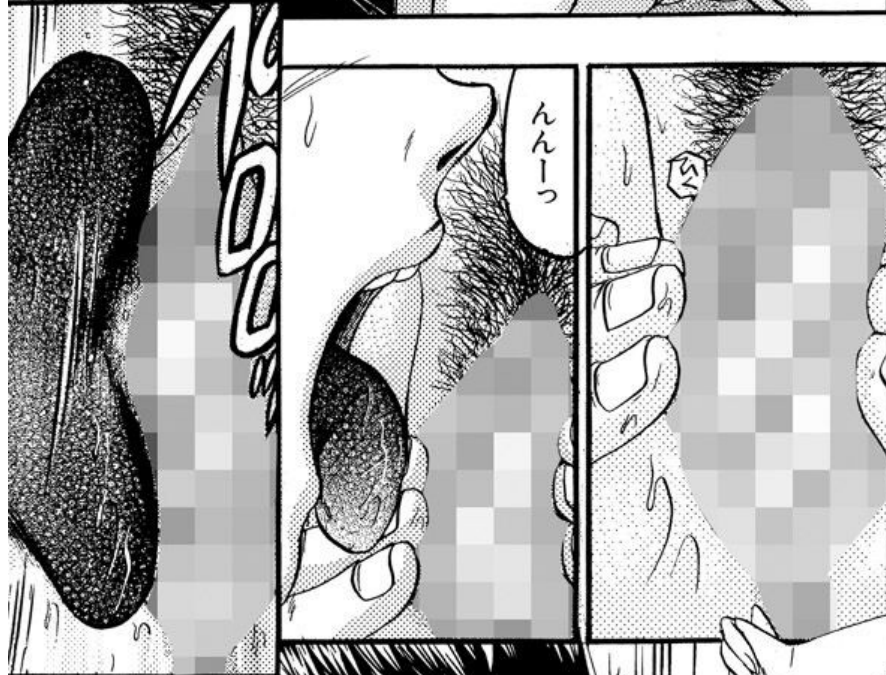
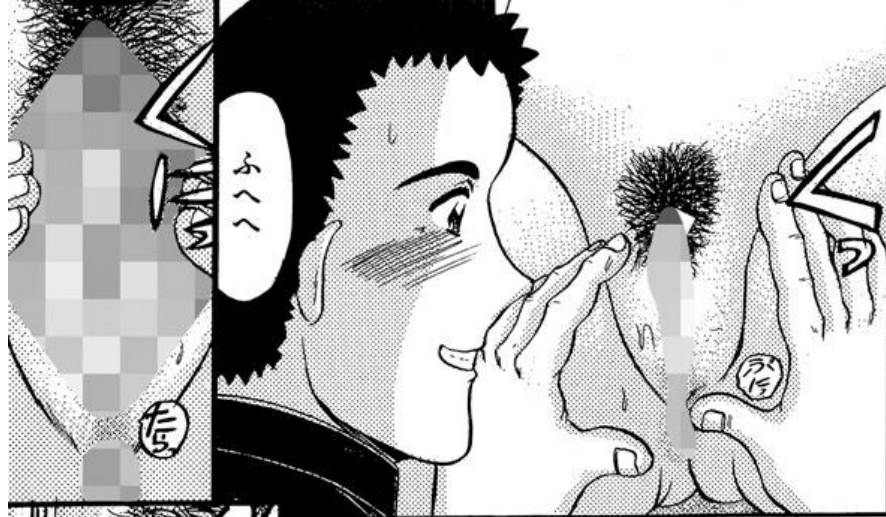


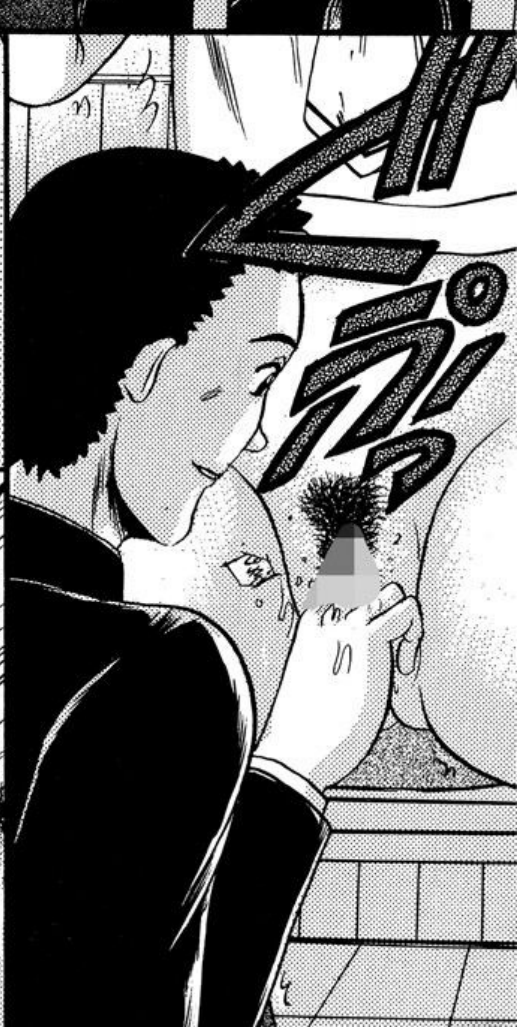
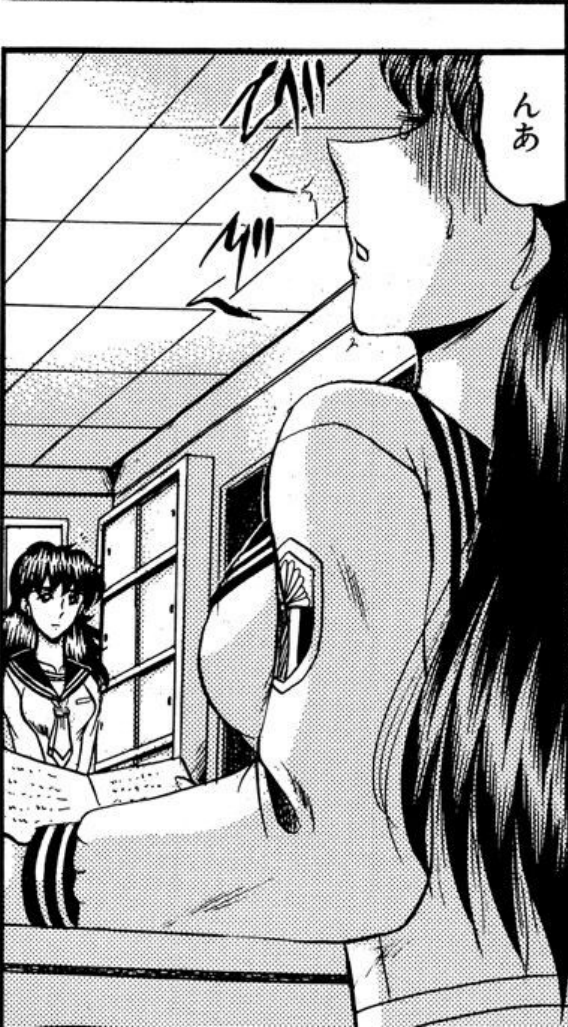
へへへ...

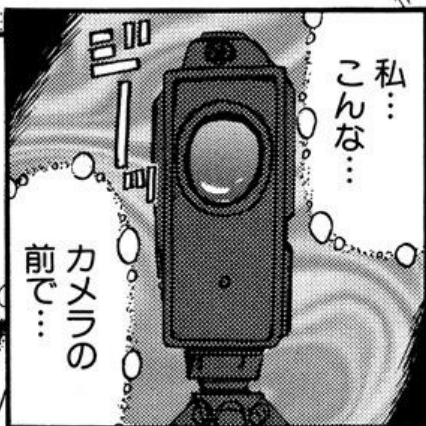
















へへへそうだ会長
せっかくカメラも
あることだし

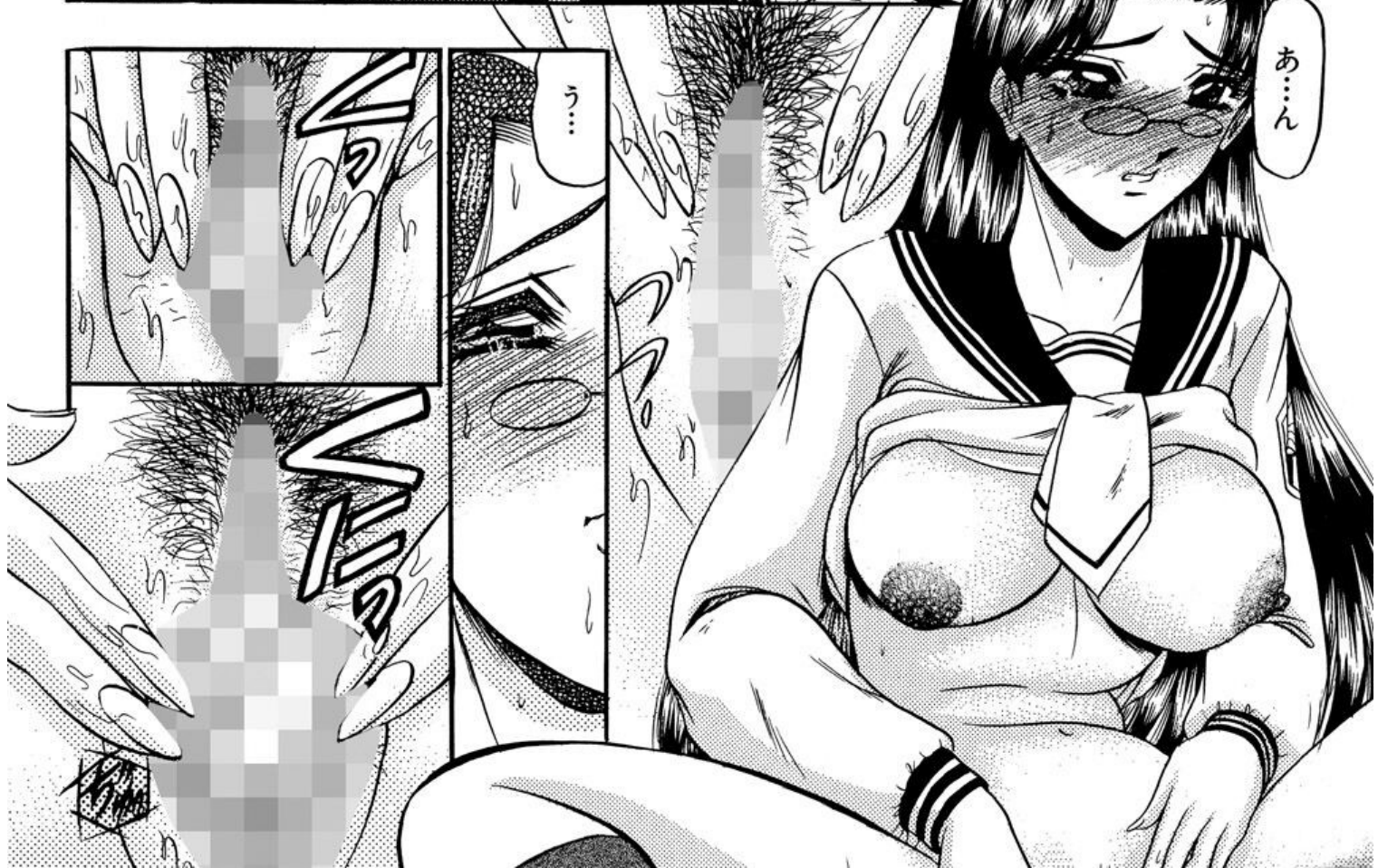
会長の
あられもない姿を
撮影しようか

二…二郎…



あ…

あ…やつ…二、二郎
私…こ、こんなの
恥ずかしすぎて…

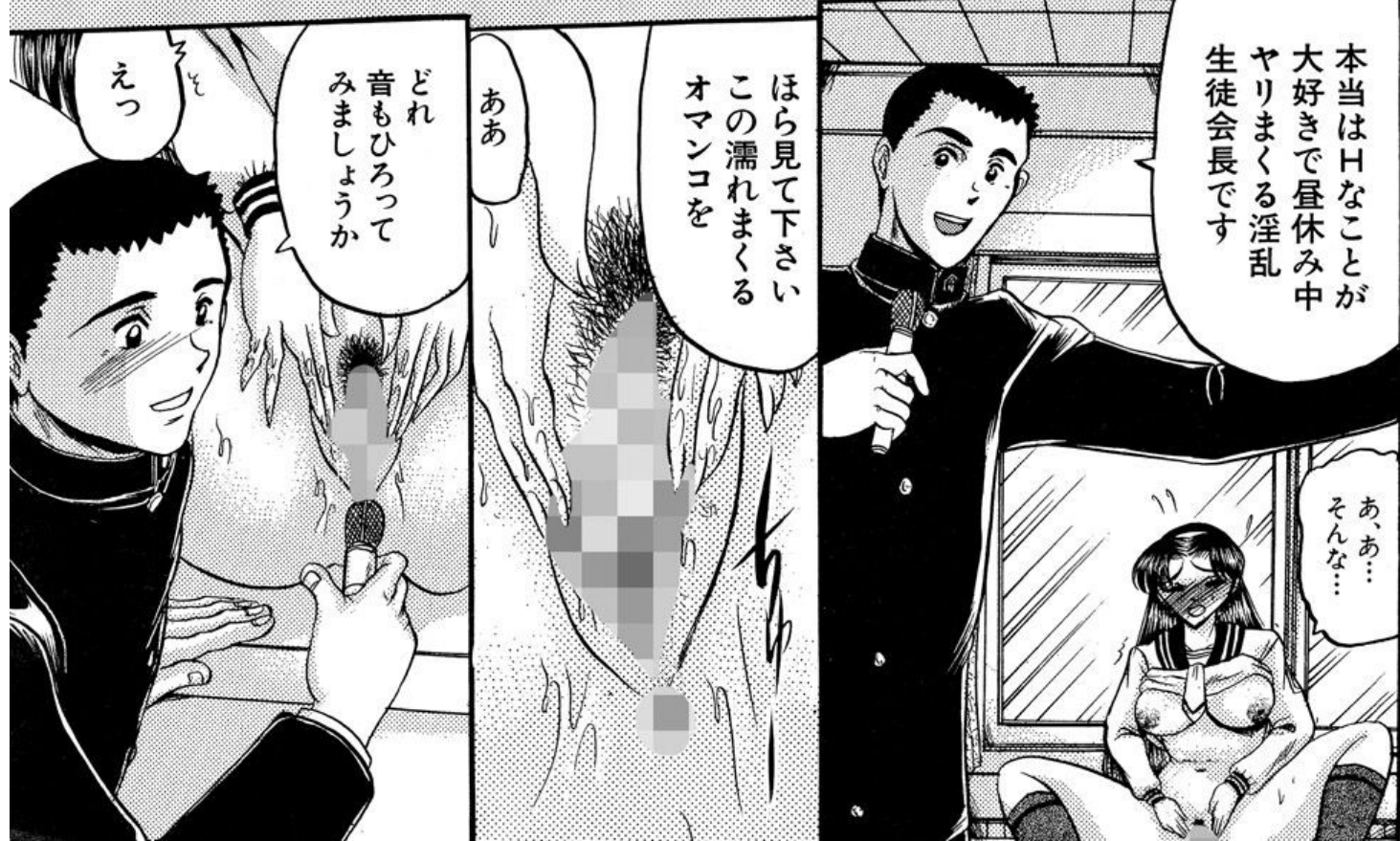




あ...あやあ
こんなあー

—ほら
見て下さい
みなさん

普段の気高く
りりしい姿は
仮の姿—



本当はHなことが
大好きで昼休み中
やりまくる淫乱
生徒会長です

ほら見て下さい
この濡れまくる
オマンコを

ああ

どれ
音もひろって
みましようか

えっ

あ、あ...
そんな...

あ…や、やめて
二郎 そんな
恥ずかしい

へへへ
そりや
そうでしょう

こんなHな
オマンコを
持っているん
だもんな

んあっ

へへへすごい
ですよ会長

—ほら
聞いて下さい
この音を

あ、や…
あ、あ…

も、もうだめ

ゆ、許して
二郎—

—何て

何てスケベな
音を立てさせて
いるんでしょうか

あ、あ…

すごい
すごすぎです



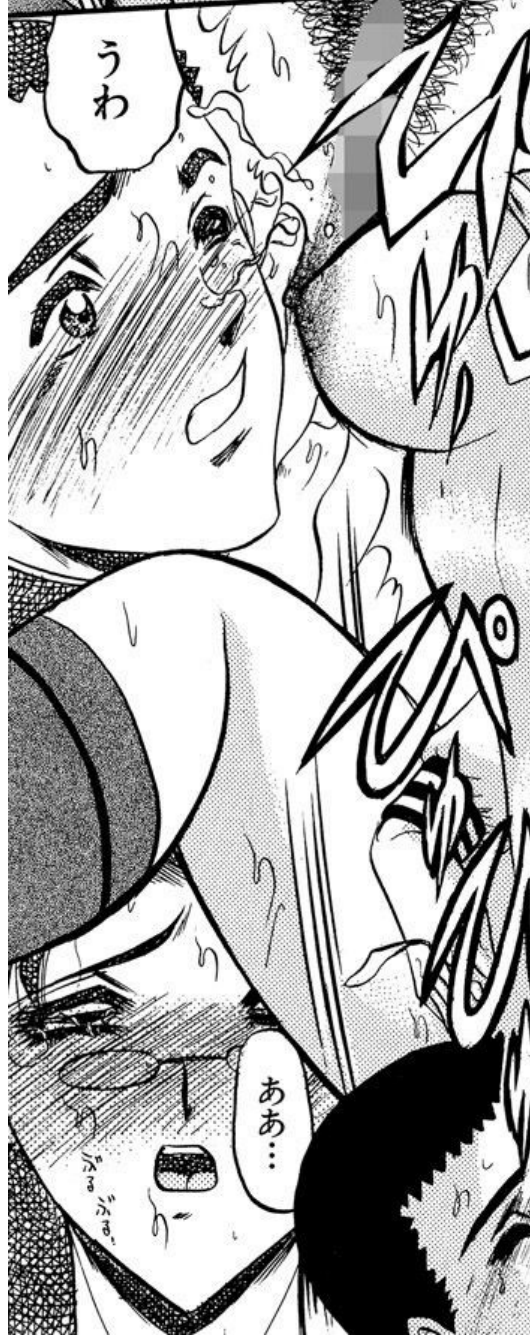
ひはあ...だ
だめそれは



へへ何が
だめなんですか



私—私
こんなだめ



うわ



あはあ—っ



え、何がです？



ああ...



だめ—



ひああ



ほら会長
カメラの前で
もう一度

あ…あ

あ、あ…ちようだい
オチンポ早く

あ、は…ん

んっ

ん

はむ

いっ
ちゅっ

くっ
ぱっ

○○○

っ



すごいです
会長のフエラテクは
まさに完璧です

まさに
パーフェクト

さすがは会長
Hな方面も
完璧ですね

どうです会長
オチンポ好きですか



あ…はあ
好き

二郎のオチンポ
大好きなお

ははは会長
いけませんよ
それでも名門
六条院家の
お嬢さまですか

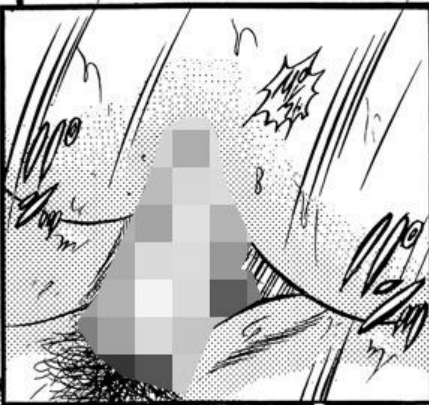
ああ…やあ 二郎
そんなこと…

ああ

あっあっ

だから…
だから早くう…

りり
りり





こんなに淫乱だって
知られたら 暴動が
起きちゃいますよ



——ほら見て下さい
結合部まで丸見え
ですよ

あ、あ…やあ
こんな



あ、ああ私
私、こんなこと
恥ずかしくて

そうですよ会長
会長はどうしてこうも
淫乱なんですか

え？

や、違…私
そんなんじや

へーっ

え？

やあ、だめ
二郎、もつと

やっぱだめですよ
全校の憧れの会長が
こんなことしてちゃ

このあたりで
がまんしましょう

やあ…ど
どうしてそんな
意地悪を…

お願い—
お願い二郎—

お願い？
お願いって
何をですか？

あ、や…あ
バカ、二郎

カメラの前で平気で
そんな言葉を

それでも名門六条院の
お嬢さまですか？

だ、だから
オ…オチンポ

わ…私の
オマンコに

オチンポ
下さい…

ああ会長
何てこと
言うんですか

や、あ…二郎…
二郎のバカあ…

そうです バカだから
わからないんです

これを
どうするん
ですか？

うん？ こことて
何ですか？

だ…だから
オ…オマンコ

オマンコに…

あ…だ、だから
こ…ここに…

早く…

オマンコ？
オマンコって
ここですか

あ…そ、そう
そのまま
オチンポを
挿入して

ははは
こうですね

会長——カメラの前で
禁止用語バリバリですよ
いいんですか？

ああ—
だからもう
じらさないで！

あ、はあ
そ、そうよ
二郎——



違う——

動くって
こうですか



——で
どうするんです
会長

え？だ
だから
動いて……



あ、ああもう
二郎——

——つ、突くのよ——



こ、腰を——

腰を？



腰を動かして——
オ、オマンコを
ズブズブさせるの——

はははそれは
わかりやすい

こうですね



ああっ

あ……は、そう
二郎もっとう

ははは 会長
もつともつと何です

ぼくはバカだから
言い続けしないと
忘れちゃいますよ

私のオマンコ
もつとズブズブ
してーっ

あ…あ、オ
オマンコよ

へー こう
ですか？

突いて突いて
突いてーっ

私のオマンコ
もつと突いてーっ

あ…あっ

あ…は、そう
それそれ

それなの二郎

二郎のオチンポ
突きたてて――

へへへ…ほら会長
何てHなんです

ああ

見えるでしょ
これが――

これがいいん
でしょ

私のはしたない
オマンコをもっと
ズボズボして――っ

あ…はあ、そう
もっと――

もっとズボズボして



あんあん



ははは会長
すごい—
すごすぎですよ



ああっ

ははは
こうですね



そ…それいい
奥まで奥まで
とどくの—



あ…そ、そう
いい—っ



突いて突いて
オマンコもつと
突いて——っ



へへへ
やっぱ会長は
どうしようもない
淫乱だ

そうでしょ会長

私…こんなにも
淫乱女なのよ

だから——
だからいかせて——

あ…はああ
そうよ二郎

二郎のオチンポで
いかせて——





5月17日
生徒総会——

第71回皇道院 生徒総会

凛々しく壇上に
立つ会長
最高にかっこいい

あっや…は

——その後
誰もいなくなつてから
その壇上で犯す

講堂中に響く
会長のいくいくの声

——とほほ……

ああ~~~~
だめだめ

いくいく~~~~

6月21日
創立者生誕記念日――

百花繚乱に負けず会長
本当に美しい――

あ……んっ

その後 会場の裏で
あまった花を
股間に一本差し

声をころしつつも
見て見ると繰り返す

――まったく……

あ……あ……私……
こんな……

二郎……二郎……見て
私を……

7月18日
大掃除

陣頭指揮の会長
実に凛々しい――

清掃中止
使用禁止
生徒会

その後掃除のフリして
便所で犯しまくる

あ……



――最後は自分で
便器とまでのたまう――

――やれやれ……

あ……私……
二郎の――

べ……便器でいいの――……

だ……だからもっと
もっと犯してえ……

――って







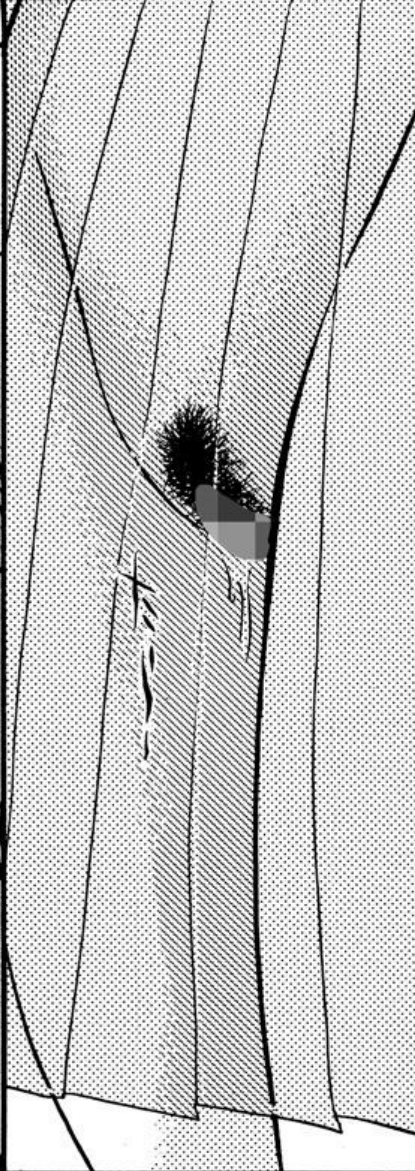
きゃあっ

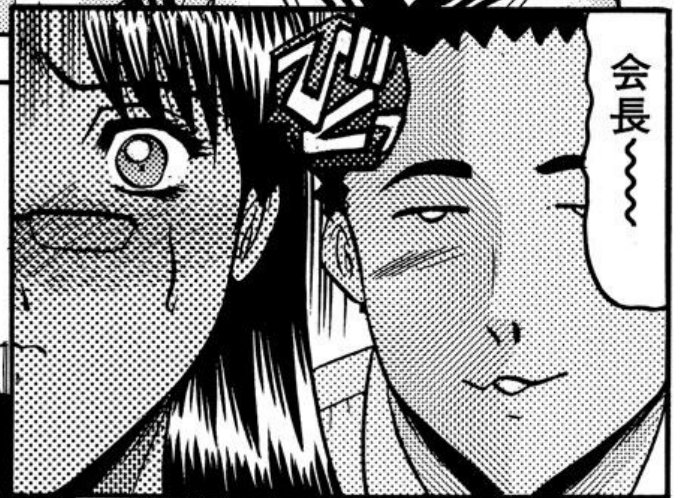
ほら

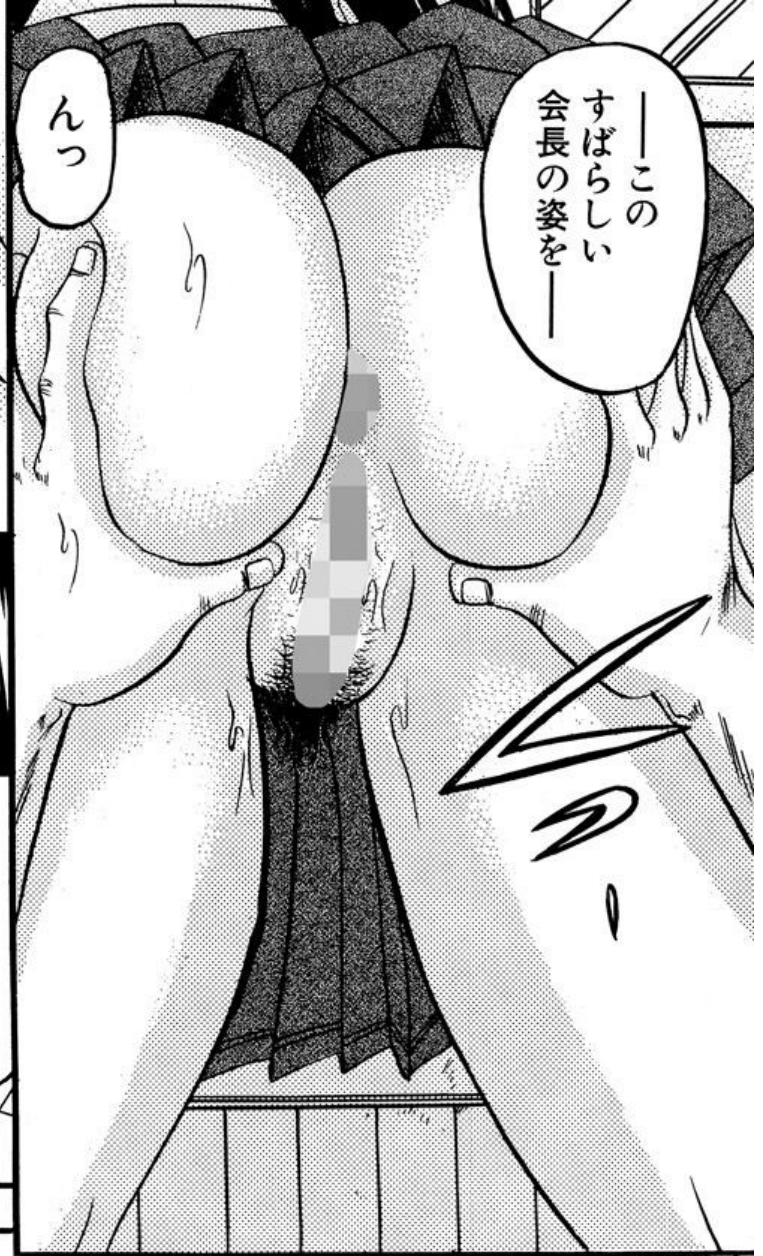
はっ

こ...これは
二郎がー

今日一日ノーパンで
すごしていた会長が
まさかそんなことを







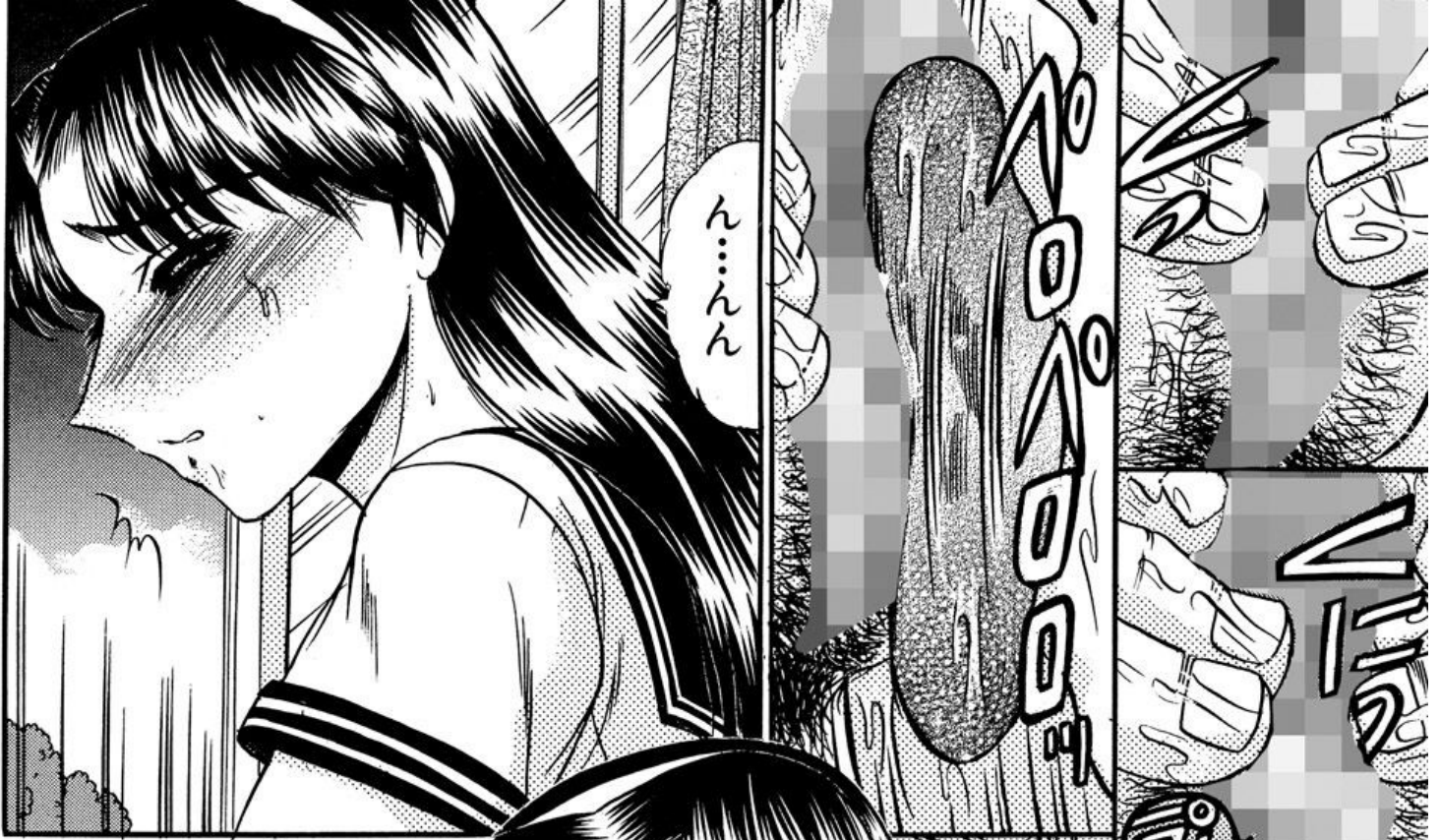
ばれたら
大変ですよー

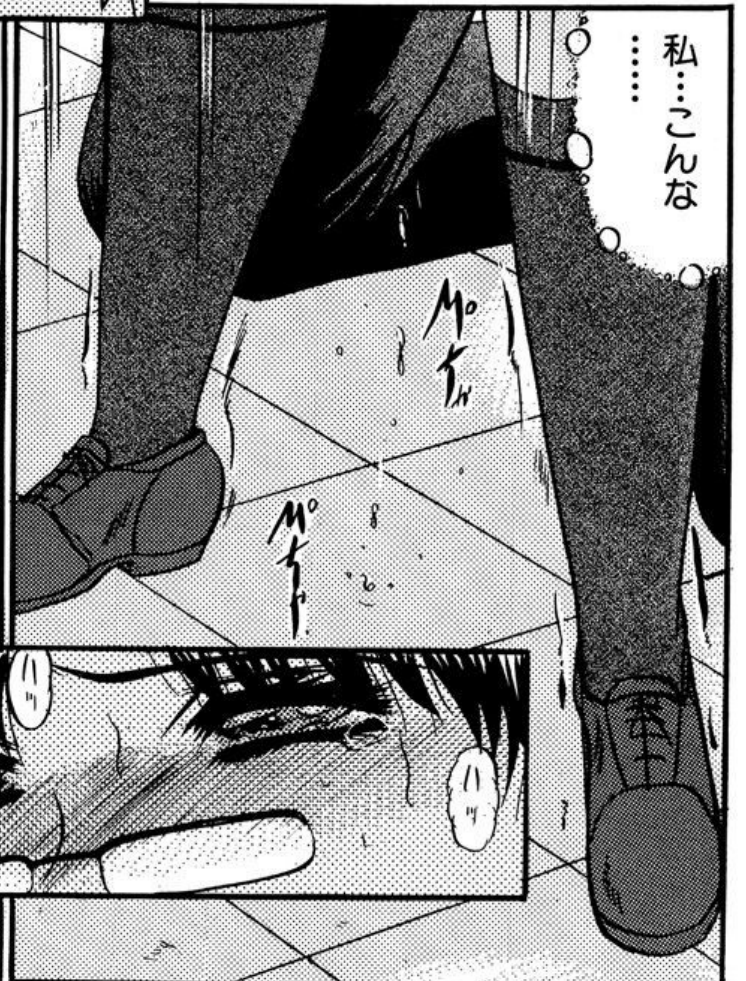
ん ああっ

ー会長？
どうしたんですか？

あ…なっ 何でもないわ
気をつけてお帰り
なさいね…









ちゃんと言葉で
説明して下さいよ

犯す？

犯すって何です？

も…もう
犯して…私を



あ…バ
バカ二郎



あ…

ほら
何をどうするん
ですか？

ちい

ん

あ……だ……だから
私の……

私のはしたない
オマンコに――

二郎のオチンチンを
挿入させて――

ズボズボ
出し入れ
させるのよ



— 8月10日
登校日 —

生徒一人一人に
心配りを忘れない会長
—— 実におやさしい

——で
いつも通り
生徒会室で
犯しまくり——

あっひあ

外に聞こえるほどの声で
もっともつととせがみまくる

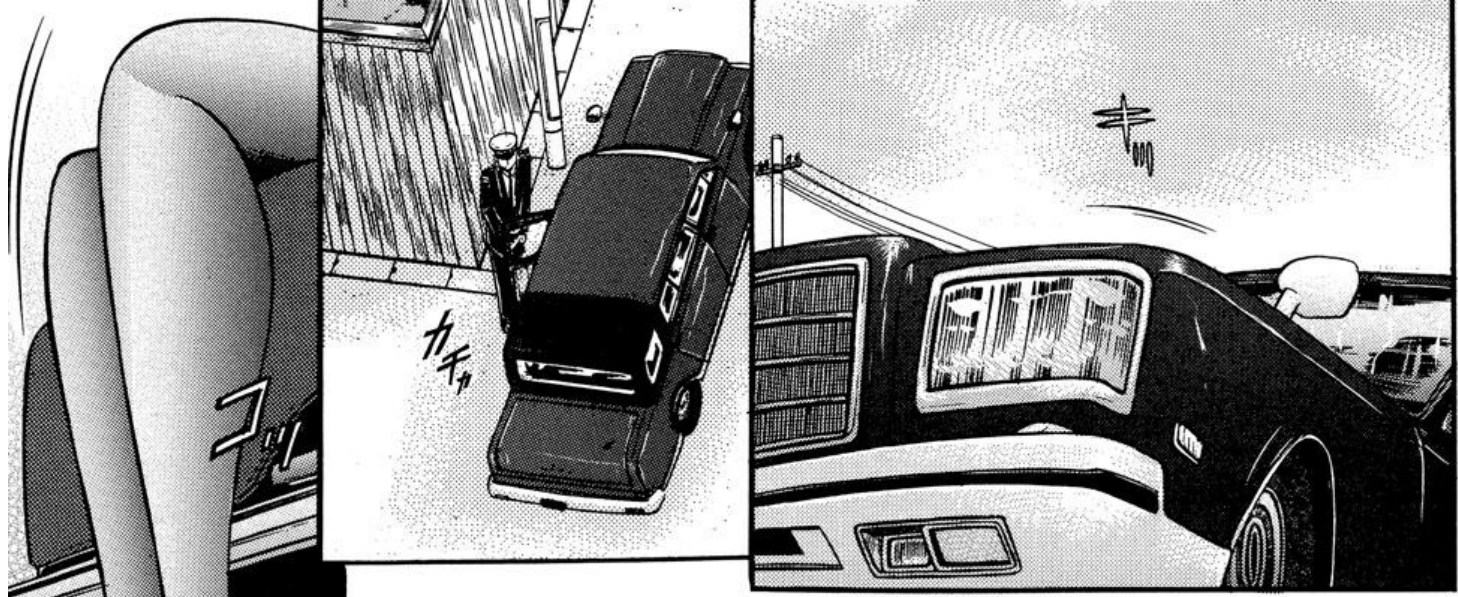
—— 本当にもう……

ああ、ああ
いいいいいい
もっともつと
~~~~~

オマンコもつと  
ズボズボさせて~~~~~

◆END◆





——ここまでで  
よろしいんですの  
夕香<sup>ゆか</sup>さま

お家の前まで  
お送りいたし  
ますけど…

いえ、もう近く  
ですので…

いつもありがとう  
ございます 松子<sup>しょうこ</sup>さま

そうですか…  
ではごきげんよう  
夕香<sup>ゆか</sup>さま



はい  
ごきげんよう  
松子<sup>しょうこ</sup>さま

はたらく  
お兄ちゃん











それは父さん母さんが  
死んで会社もつぶれて  
今は苦労してるけど…



お兄ちゃん…

お前の将来のことを  
考えたら—



名門 聖ドルチェを  
卒業するといけないのは  
大違いだぞ—



お前の学費くらい  
兄ちゃんが働いて  
何とかして  
やるから



お兄ちゃんにだけ  
こんな苦労させて…



—ごめんね…  
お兄ちゃん…

ん？





私…お兄ちゃんのこと  
大好きよ…

お兄ちゃんが  
私のために死ぬほど  
働いてくれるように

私もお兄ちゃんの  
ためなら何でも  
してあげるから…

あ、ああ  
タ香

—？  
お兄ちゃん  
…？

あつやつバカー  
お兄ちゃんたら

…胸が…  
あたってる  
……

ばっ

ぷち  
ぷち



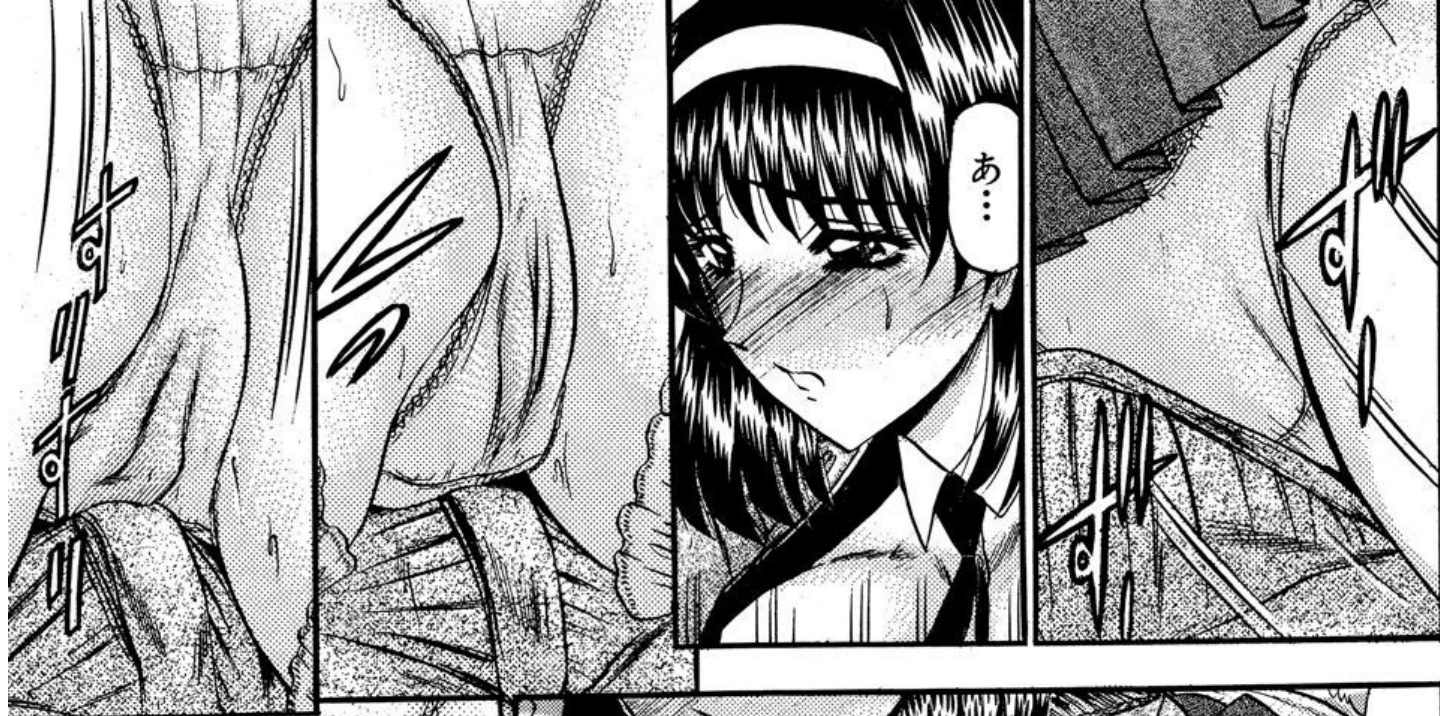
















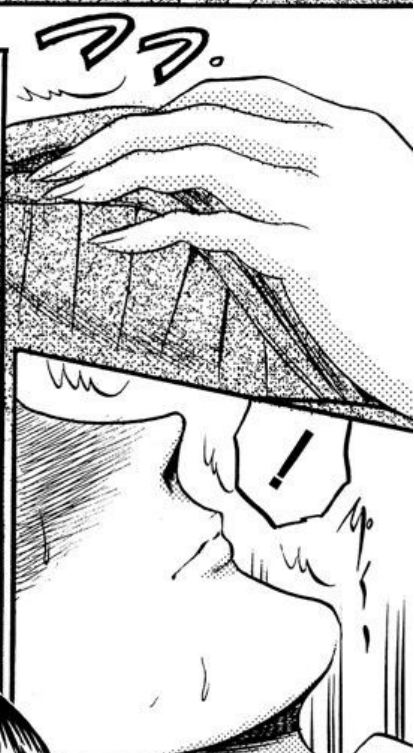
ああ...



あ...



んんっ



お兄ちゃん



お、おいタ香  
だ、だめだ  
やっぱり  
こんなこと—



ゆ、タ香



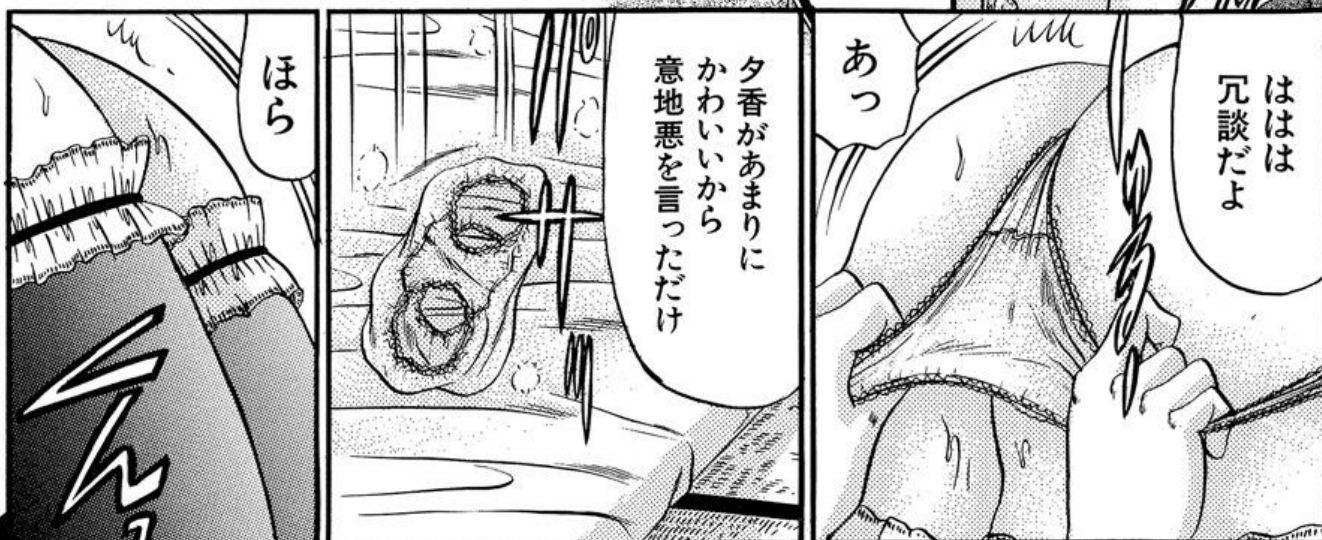
















フフ

夕香の恥ずかしい  
部分をそんなに  
見ないで——っ



あつやあ、お兄ちゃん  
そんな——っ



ああやあ——  
お兄ちゃん——

そうだね夕香

はじめて  
——処女なのに  
こんなに濡らして——  
何て恥ずかしいんだい  
うん？



ほら、処女膜が  
ひくついてるよ

あ：やあ  
お兄ちゃん  
そんなこと

たまらないよ  
夕香

あああつ

ああああ——っ







はっはは、夕香  
お前はかわいすぎ  
だよ——

お兄ちゃんも  
たまらないよ——

ああ——っ

あ、ああん  
お兄ちゃん——

あ、ああっ

——？  
お兄ちゃん……





い...いいのか夕香  
本当にお兄ちゃんが...

あ...は  
きて...

夕香を—

夕香をお兄ちゃんの  
ものにして—

かあ〜





あっんっ 大丈夫  
きてお兄ちゃん



ゆ…夕香  
大丈夫か



んっ



あっゆ  
夕香…



かはああ——っ



んっ



いくよ  
夕香



んんっ

ああっ





大丈夫か？  
大丈夫か夕香  
痛いのか！

あ…ん…  
ち…違うの  
お兄ちゃん…

私…私…  
うれしいの…

大好きなお兄ちゃんと  
一つになれたことが…

ゆ…夕香

お兄ちゃん…  
私のこと…  
好き…？

愛してくれる？

あ…ああ好きだよ  
…大好きだよ

—夕香が何より  
恋しいよ…

夕香

あ…は…  
うれしい…  
お兄ちゃん…









あっあっあっ

あっああっ  
こんな——っ

どうだタ香  
きもちいいかうん？

あっんっいい

私——すごく  
きもちいい

お兄ちゃん——  
お兄ちゃんは  
きもちいいの？





あんっ



ああきもちいいよ



あっんっ  
お兄ちゃん

お兄ちゃんは  
夕香の感じてるのを  
見るのが一番いいんだ



あ、ああっ  
こんなー



だからもっと  
感じておくれ

ああっ



あんっ





はじめて  
処女なのに感じる様を  
お兄ちゃんに見せておくれ

ひああっ

ほらほら

あっあっあっ



あ、やあっ  
きもちいいー



私——  
処女だったのに  
本当にきもち  
いいの——

お兄ちゃんのが  
ああ——



お兄ちゃんのが  
私の<sup>なか</sup>膣内で熱く  
動いてて――

私――私  
どうにか  
なっちゃう  
――っ

そうか、いいよ  
もっともっと  
感じるんだ夕香

ほら――

あああ――っ

ああすごいー

すごいよお兄ちゃん



ん、どうだ  
どんな感じだ  
タ香

お兄ちゃんに  
教えておくれ――

あゝわ、私の――  
私の膣内――

お兄ちゃんの熱いのが  
出たり入ったり  
するたびに――

うん？

あっ

うん？  
こうかい？

あっ

ほらほらほらっ

あっあっあ~~~~っ



出たり入ったり  
するたびに何だ  
夕香!?

あっあっ

ひっあっ

で、出たり入ったり  
あ…するたびに私の  
— あっあっ

ああやあ許して  
お兄ちゃん私—

私—私  
何かくる

ああ—  
やあ—  
こんな—



そうか——いくか  
いくのか夕香

あつあつ……わ  
わかんない——

わかんないけど  
夕香の体が中から  
熱くなって——

ああだめ  
お兄ちゃん  
私——

私、このままだと  
本当に何か——

そうか——いけ  
いっちゃえ  
夕香——

あつ

はじめて  
処女なのに  
いっちゃうんだ  
夕香——

あああ  
お兄ちゃん  
ああ——



ああーだめ  
夕香いくうーっ





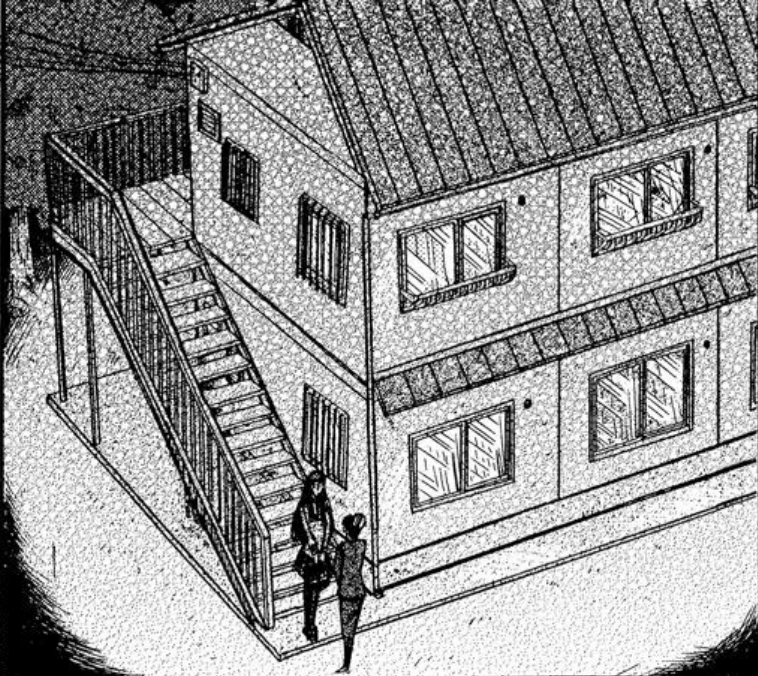






それまで  
には――

松子お嬢さま、今日は  
いいところ一時間で  
それ以上はごまかし  
できませんわ



認められるはずが  
ないってことを――

あのレベルの男ではとても  
名門錦郡家の令嬢である  
松子お嬢さまのお相手として



こんな関係を  
続けられるのは  
せいぜい在学中  
だけってことを――



すみません浜さん  
いつも面倒をかけ  
させてしまって……



いえそれが私の  
仕事ですから……

――でも  
わかってますね

通い妻令嬢



……







…夫か…

—僕みたいない  
しがない物描きが  
本当に君みたいない  
いいとお嬢さんに  
ふさわしいのかどうか…

……

— 洸児さま

洸児さま おつしやつて  
下さいましたよね……

私が20才になれば  
誰にも遠慮することもなく  
法律上結婚できるって…

家も何も  
関係ありま  
せんわ〜

私は洸児さまと  
一緒になれるのなら  
錦郡の家のことなど  
全く—

私—  
信じて  
ますから…







い…いかがですか  
洗児さま



あ…は…



あわ  
あ…

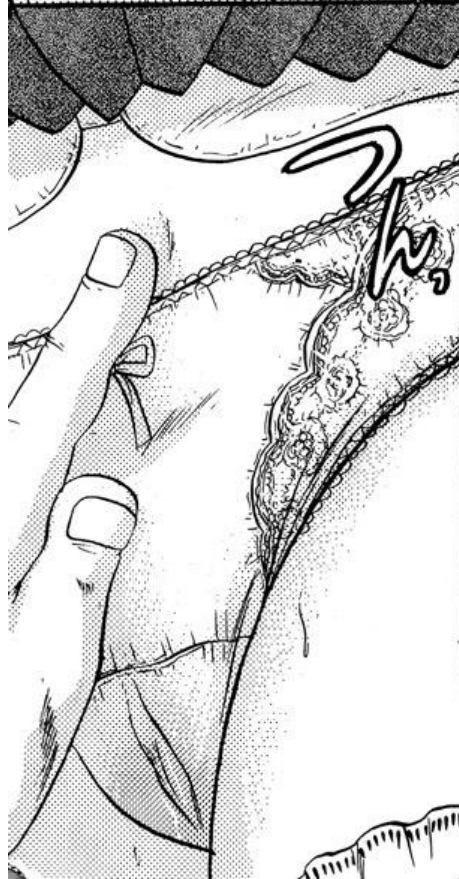
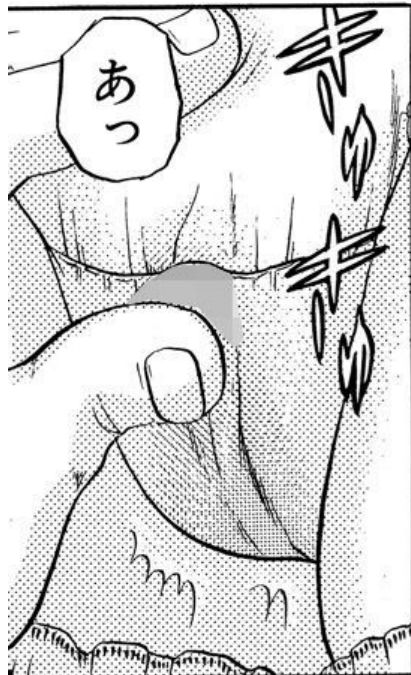


あは  
最高だよ  
松子さん

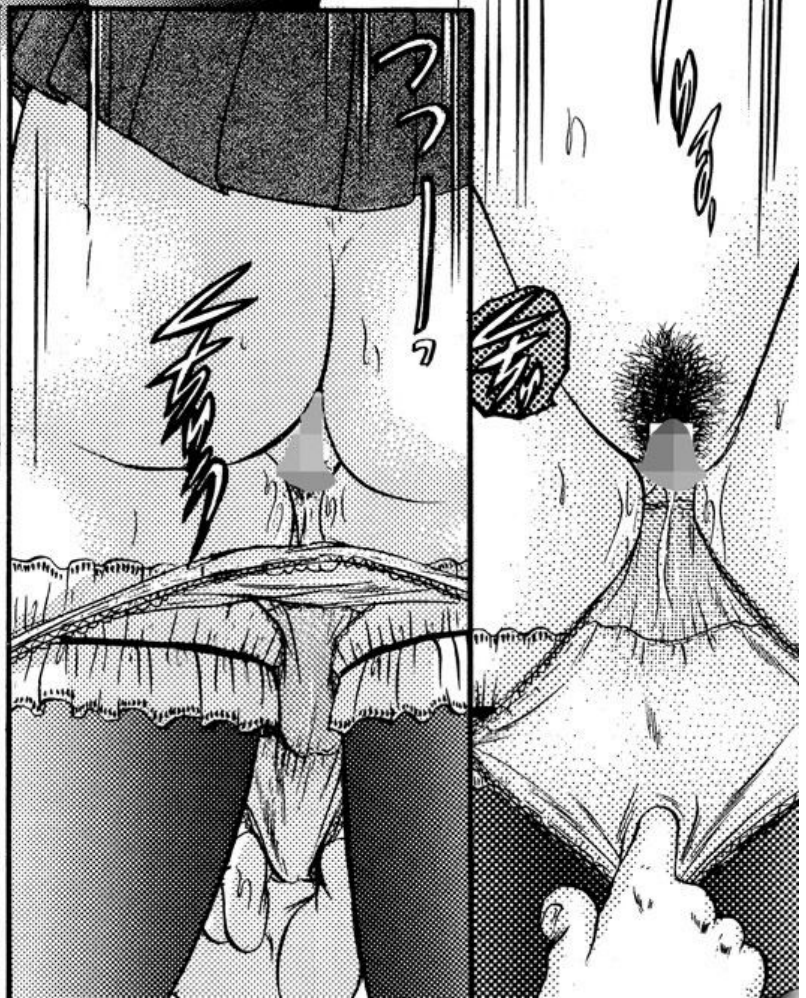
よし ぼくも  
夫としての務めを  
はたそうか

















あ

ははっ何て  
何てHなんだい  
松子さん

あ…  
洗児さま…

初めて会った時から  
想像できないよ

ぼくの前でこんな姿を  
さらしてるなんて――

ぼくが少し手伝っていた  
老人ホームに  
ボランティア研修とかで  
やってきて――

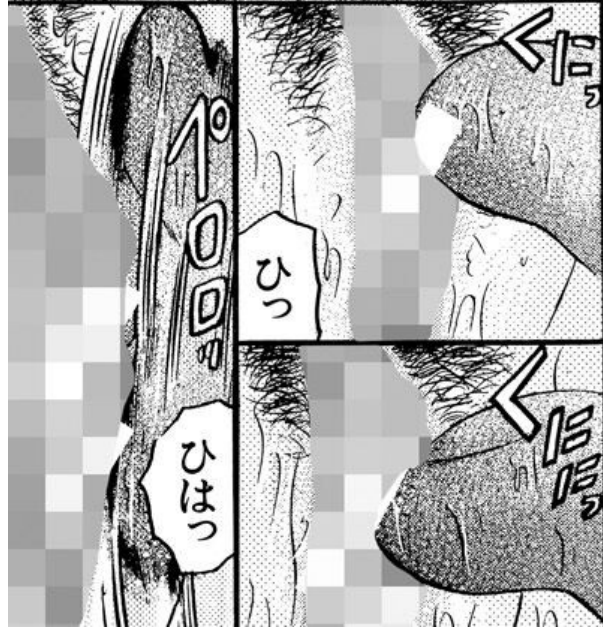
まるでぼくには  
天使に見えた

そんな君がぼくの前で  
淫らな声をあげている  
なんて――

あ…洗児さま  
そっそんな意地悪な  
ことを――

まぶしくたおやかに  
光り輝いていた















ああ洗児さま  
だめっそんなー

あっ

ははお尻が  
ひくついてるよ

まるで別の  
生物のようだ

ああやあ…  
ははずかしい

はあっ

フフフほら  
もっと



あああ——っ

ああ 洗児さま  
そこ——

ほら松子さん  
お尻もきもち  
いいんですよ！

なんて…なんて  
はしたないんだ  
松子さん

あやあ そんな  
洗児さまあ

ひああっ







ああやあ  
洗児さま――

洗児さまの  
いちわるくっ

洗児さまが――

洗児さまが私を  
こんな体にくっ



いやだな松子さん  
人のせいにして

え!?

いやじゃなくて  
本当はほしいんでしょ  
――お尻に

あ…



ね…  
松子さん

あ――

ハハハ

ハハハ



あ…くっ下さい  
洗児さま

私のはしたない  
お尻に…

あ…こ…  
洗児さまの…  
…その…

うん？松子さん  
下さいって何だい  
はつきり言つてよ

—ぼくの…  
何だい？

あ…その…

あつこっ  
洗児さま

なっなぜそんな  
いちわるを…

かあ

私——  
恥ずかしくて  
気絶しそう  
なのにな

はっはは松子さん

何てかわいいんだ

ごめんね  
意地悪言って

これが  
ほしかったん  
だよ

あ

あ~~~~

ひはあ



どうだ!? どうだい  
いいんだろ うん?

あつあつ 洗児さま

いいいいです お尻が――

お尻がきもちいい  
です あ~~~~~

はっはは 松子さん  
お尻がきもち  
いいって――?

はしたないなあ――  
それでも名門錦郡家の  
お嬢さまなのか!?

ああやあー  
洗児さま

いちわるを  
いわないで――

本当はこれって  
すごく異常な  
行為なんだよ

それがきもち  
いいなんて――



私——私  
そんなあ——っ

フフフ…

あっ

ひああ——っ

ほらほら  
たまらないでしょ  
松子さん

自分が淫らで  
はしたない女だって  
認めちゃいなよ——

ああやあ  
洗児さま私——

ああっ





ああ——  
だめ——  
洗児さま——

許して下さい  
洗児さまこんな——

こんなはしたない  
私を——

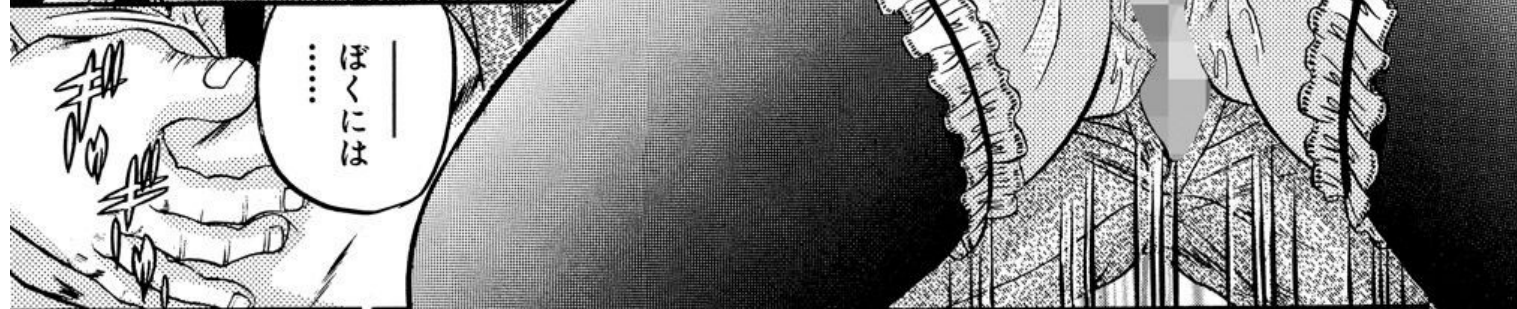
きらいにならないで  
下さい——



ははっ ぼくが

ぼくが松子さんの  
ことをきらいになる  
わけないでしょ

あっ



ぼくには  
……



本当にぼくには  
もったいない  
すばらしい女性  
なのに——

あ……

あっあうれしい  
洗児さま……

——ほら  
松子さん

不器用



え？

松子さんほら  
今度は松子さんの  
最高のオマンコを  
味わわせてほしいな

あ…は

—さあ  
どうぞ洗児さま

どうか松子<sup>私</sup>の総てを  
思うままにお使い  
下さいませ—

はっははは

本当に君は  
最高の女性<sup>ひと</sup>だよ





あっああ  
洗児さま――

――いかがですか？

いかがですか  
洗児さま――  
私の膣内は――

あっああいいよ  
いつもながら最高  
だよ松子さん

あっはっうれしい

――どうぞ

――どうぞもっともっと  
私の体をお使い下さい

ほら

っふん





私の体は総て  
洗児さまのモノ  
ですわ――

ああっ

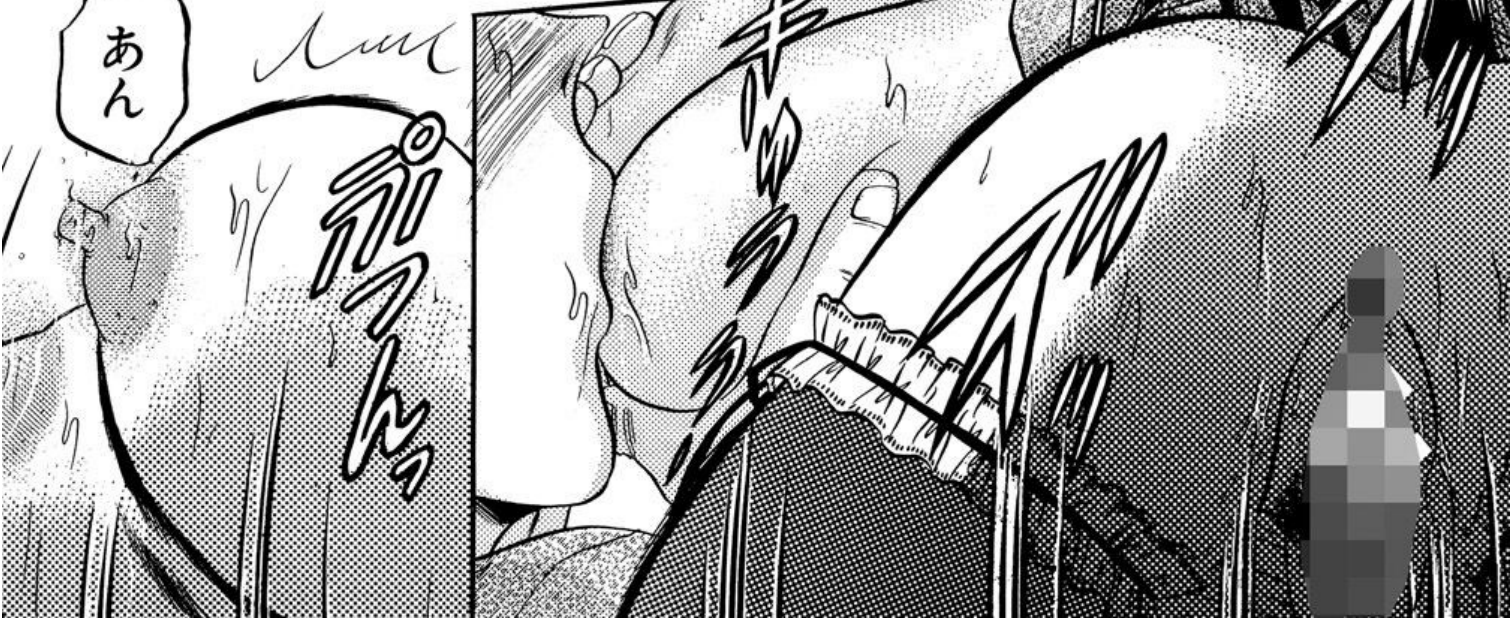
ぐんぐん



私の総てを  
洗児さまの  
欲望のままに  
あつかって下さい  
ませ――

はっは 松子さん  
なんてうれしい  
ことを――

ぐんぐん



あん

ぐんぐん



あああ——っ

ほらほら  
松子さんも  
もつと感じて  
くれよ——

あっあ  
洗児さま——

松子さん……

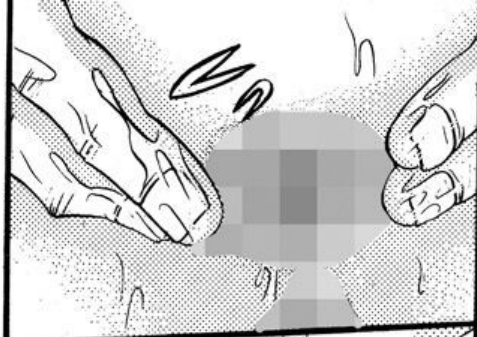
あ……あ 洗児さま……

ぼくの前だけ  
淫らに乱れる姿を  
見るのが大好きなんだ

ぼくは普段の  
清楚でたおやかな  
松子さんが——







あつ



だからほら

あつ

ひつあつ洗見さま  
そんな〜っ

ほらほらどうだい  
松子さん――

ズッ  
ズッ  
ズッ

だつだめ私――  
私こんな――

あつひつ  
そつそんな





あつや…はあ~~~~  
きつきもちいい~~~~

きもちいいです  
洗児さま~~~~

あつああ  
お願いします  
洗児さま

ん？

私が——  
私がどんなに  
はしたなく  
乱れても——

私をお捨てに  
ならないで  
下さい——

ははは  
松子さん  
何てことを  
言うんだ

ぼくはそんな  
松子さんが  
大好きなんだ  
から——

ああ

おもいつきり  
淫らな姿をぼくに  
見せつけてくれよー

ああ

ひはああつ



ああ いいいい——  
オマンコいい——

私のはしたない  
オマンコがこんな

ああ 下さいませ

淫らな私に  
もっと——

あっひっ  
すごーい

ひ

ひあ



すごいです  
洗児さま  
それ——っ

ははいはいよ  
すごい淫乱ぶり  
だよ松子さん

ひはあぁっ  
洗児さま——

お願いします

私を——私を  
これからずっと

妻として——っ

ははっ大丈夫だよ  
安心していっちゃい  
なよ松子さん！

あはあぁくく  
洗児さまぁくくっ

あっあっあっ

ズッ

ズッ

ズッ



いくう いくう~~~~  
オマンコとお尻で  
いくう~~~~







——松子さん  
もしかして  
不安なの…？

え!?



……

……



…ええ

——もう一時間か  
…早いね…



私——私今のままの  
洗児さまであっても  
全然——



——でも  
それは…



もちろんぼくも  
君が20才になるまでに  
何としても君の実家に

正式に申し込める立場に  
なるよう努力はするけど…



——ですから…  
ですからお願いします  
…私を妻に……



そつそれでも  
いいんです——



は!?

これは…?

——ほら  
松子さん

え?

……

あ……

|              |     |                   |
|--------------|-----|-------------------|
| 婚姻届          |     | 受理 平成 年 月         |
| 平成 年 月 日届出   | 第 番 | 送付 平成 年 月 第 番     |
| 東京都陽泉市長 殿    |     | 書類調査 戸籍記載 記載調査 調査 |
| 夫になる人        |     |                   |
| し じま         | こ う | い                 |
| 氏 名          | 姓 名 | 旧 姓               |
| (印) 志 島      | 洗   | 田                 |
| 日 (昭和・大正) 53 | 陽泉市 | 和什ビ               |
| 所            |     |                   |

ぼくの必要な部分は全部  
書いてあるから……  
松子さんが20才になったら  
好きなように判断して  
いいから……

あ……はあ  
洗児さま——

◆END◆









久しぶりに  
会えたってのに

あ...い...  
いいのかい

—さ、どうぞ  
冴児さま...

お使い下さいませ...



夫のことを  
いかなる時でも  
受け入れることは

もちろん  
ですわ  
冴児さま



妻の重要な  
役目ですもの

あ...あ  
松子さん

ああああ



あっひあ

あっああ  
洸児さま——

あっああ私で  
私の性器で満足  
していただいて  
ますか？

あっああいいよ  
最高だよ  
松子さん

こんな場所でも  
させてくれるなんて



ほらいきな  
松子さんほら――

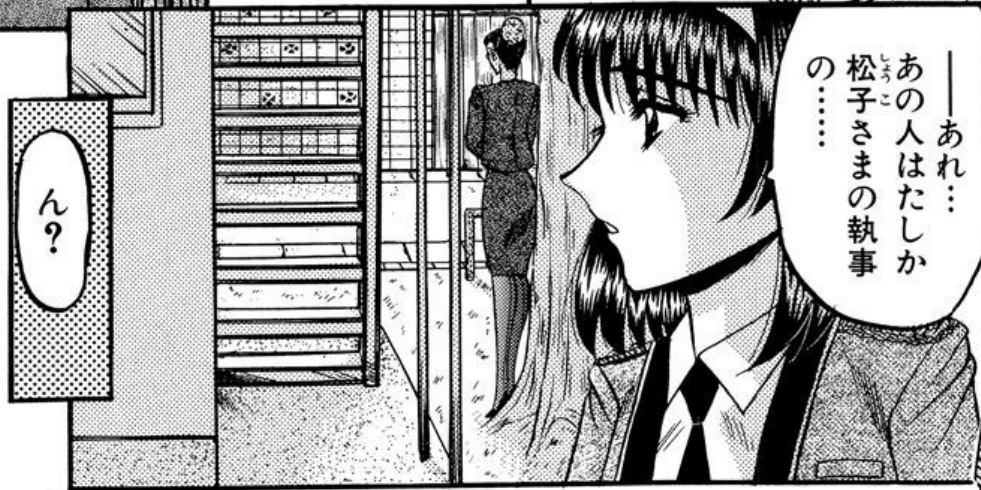
あつはあ

ああ 洗児さま  
あはは~~~~

い  
く  
い  
く  
い  
く  
う  
~~~~

あつはああん

◆END◆











気になりますか

この恰好が…

あ…え
いっいえ
その…

あまりにも学校とは
雰囲気が違うもので…

ごきげんよう
松子さま

ごきげんよう
夕香さま



あ…でも
別にその…

私…

私 洗児さまの
愛を受け入れる
ためでしたら
何でもしますわ

たとえ誰に
軽蔑されたと
しても—



けっ
軽蔑なんて
そんな—

洗児さまが淫らな女が
好きとおっしゃるなら

私は誰の前でも
淫らではしたない
女になれますわ





ほら松子さん
いつもより興奮
してるね…

こんなにして…

あっああ…



しよ…松子
さま……



そんなに
クラスメイトに
見られるのが
いいのかい？

あっああ…

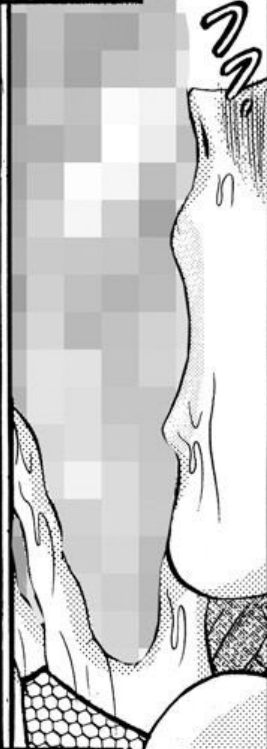
はああん

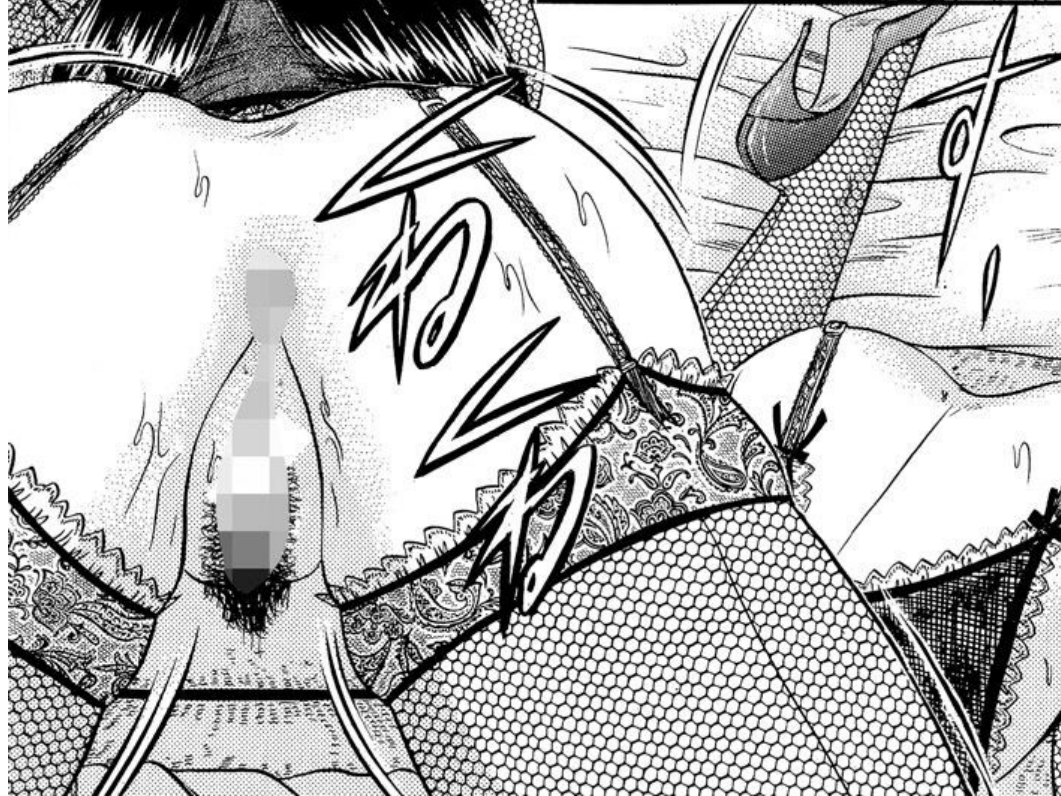


あ…
あの洗児さま
私にお口で御奉仕を
させて下さい…

ん
そうだね

松子さんのフェラは
最高だもんね







その…よろしかったら
もっというろと見せて
いただけませんか？

—私、松子さまが
どのように愛され—
お相手様を悦ばせるか…

その…とても興味が
ございます…

あ…
夕香さま

かあ、

—ほら松子さん
お友達もああ言っ
てるんだ

淫乱な松子さんの姿を
見せつけてあげようよ

あ…はあ
洗児さま…

ああ—

あはあん

あんあんあん



あっはん
見…見て—

見て下さいませ
私を—

こんなにも
はしたなく濡れる
私のオマンコを—

あああ
洗児さまあ—

—ああ
早く—っ

早く下さい
ませ—

私のこんなにも
淫らなオマンコと
アヌスに――

あ……

あ……
松子さまが……

あのだあやかな
私のあこがれの
松子さまが……

こんな……

あはあ……



夕香さんは
アヌスってわかる？

したことあるかい？

ええ！？

え…いえ
アヌスって
その一体…

は！？

あああ——っ

あはああ——っ
いっい——っ

あっひあ



あっああく
見て下さい私

私…こんなにはしたない

ははは そうだよ
松子さんは本当に
はしたないね

クラスメイトの前で
お尻を犯されて
悦んでいるなんて

そらそら—

ひっあつ

はあやあ
恥ずかしい—





あはあ 洗児さまいい
お尻がいいです



あああ...



え!?



フフフ オマンコが
さびしうだった
からさ—

もっと私に
下さいませ—



あっそ...そんな
洗児さまもつと—





どうだい？
どういいんだい？
言ってみてよ
松子さん――

あああゝゝゝ
おっお尻のゝゝ

お尻のバイヴと
洗見さまのが
体内で――

体内でこすれる
ような感じが
いいです――っ

ひああっ

ひっ

あ!?

そうかいじゃ
こうすると



あっひっああ——っ
すっすーい

こっこんな——

おお尻が
ああ——

ああだめ~~~~っ

洗児さま
洗児さま
私~~~~







んああつ



あ…



これが二人の
愛の姿…

はあん

かん…
これが…



あはああ…
オマンコ
オマンコ—っ

あ…そ…
そんなにも
淫らで—



あはあ

あ…あ 松子さま
私も…



私もそんな風になれますか…？

そんなにも
美しい女性に――

はあああ~~~~んっ



ああ!?

は...ああ

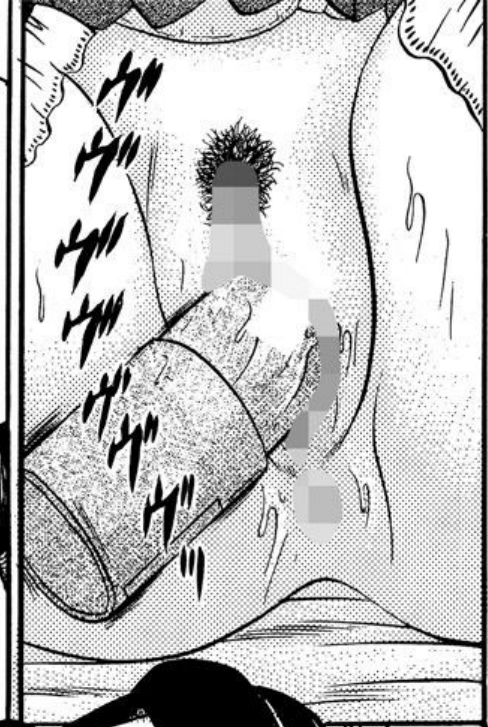
あっああ



あ…わっ私
こ…こんなものを
私の膣内に—



私—挿入れちゃった—



あつや…わ…私



あつああ—っ



こんな—

こんなはしたないことが
きもちいいなんて—

はつや…でも
だめっきもちいい—



あああ



あ……

ドキ

そうやって愛するお方の
どんな欲望も受け入れ
られるよう——

女をみがいていくのですわ

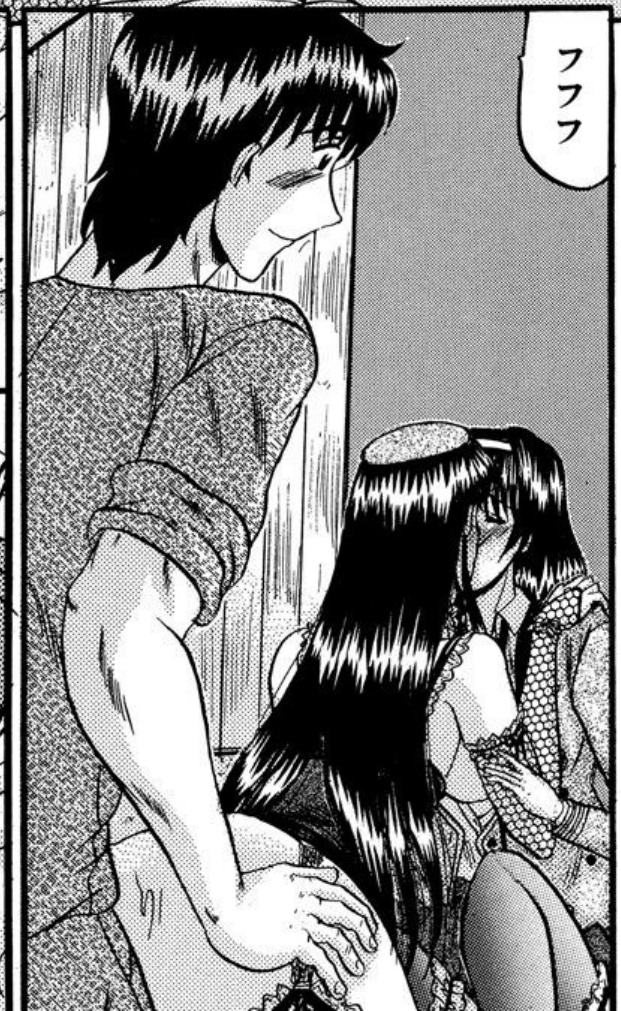
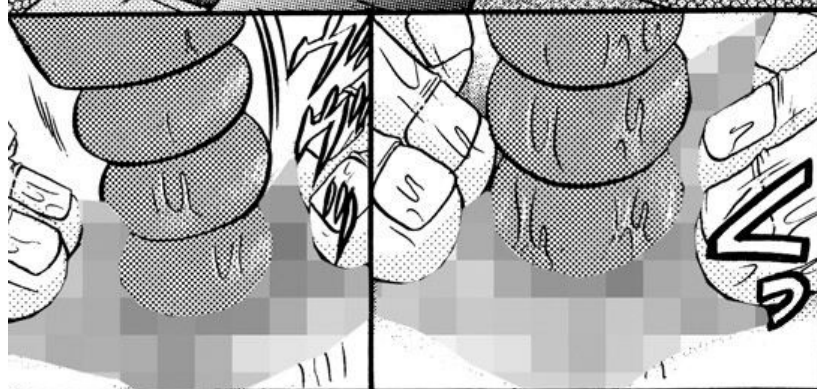
うふふそうですわ
夕香さま……



んっんっ

フフフ
夕香さま
……

あ……しょ
松子さま
……





あああつ

ひはああつ



あ…は
松子さま

う…ん

あん!!



あは 松子さま
きれい...



あはああ
夕香さま
そっそれ



ああ...夕香さま...



さあ夕香さま
一緒にいきましよう

あ：
松子さま



ほらはら松子さん
夕香さんにだけ
させちゃだめだよ



あ：はい
洗児さま

はああいくう
いくいくう~~~~



——ただいま
お兄ちゃん

どうした夕香
えらく買物に
時間がかかったな

お兄ちゃん…

うん？

お兄ちゃん
夕香のこと
愛してる？

えっえ！？

夕香のことを
愛しているなら

もっともっと
Hなこと
いっぱいして

も…もちろん
愛しているよ

え…あ…？

——じゃ…
お兄ちゃん
お願い…

◆END◆



あ、おはよう
お兄ちゃん

うん…

ほら、お兄ちゃん
日曜だからって
遅くまで寝てちゃ
だめよ

もぞもぞ

んん

んっ

!!

あ…ゆ、夕香
そ…それは

だ…だから
その姿は

え？何？
それはって

それぞれの日常



あ...ああ
それはまあ
好きだけど
...

あは
うれしいー

ーじゃ

朝食の前に
夕香を食べる？

あ.....

102

志島 光児

加



いかがですか
洗児さま...

.....

ああ 最高だよ
すぐくHだよ
松子さん

ほら下の方も
見せてよ

あ...は...
はい...



ああ、すごいよ
松子さんは髪も
多いから、下の毛も
ほつとくとすごい
ことになるね

あ…そんな

それでも名門
錦群家の令嬢
さまなの？

私は、すでに錦群家の
ものではありませんわ

あ…ち…
違います
洗児さま

ん

——私の総ては
洗児さまのもの——

洗児さまだけの
所有物ですわ

これはしたくない
オマンコも
何もかも総て

洗児さまの欲望のまま
自由に扱える――

――性の奴隷に
他なりませんわ……

――さあ……御使用
下さいませ……

ははっ 松子さん
やっぱり君は
ぼくにとつて
最高の妻だよ

あはあ……
洗児さまあ……



あ…ああ

かかかか

あああ〜〜
お兄ちゃん ああっ

だからほら
いっておくれ

ああ夕香
お兄ちゃんもすごく
きもちいいよ

あはっ

お兄ちゃん—
お兄ちゃんは？

ああお兄ちゃん
私…すごく
きもちいいの

いくいくお兄ちゃん
いくう~~~~っ

あはあ…

ああう

ゴッゴッ

ゴッ

ゴッ

あはあーっ

いかがですか
いかがですか
洗児さま〜

私のオマンコは
—？

ああ
いいよ
最高だよ
松子さん

なんて君は
はしたないんだい

あ…や…そんな
恥ずかしい—

ああ

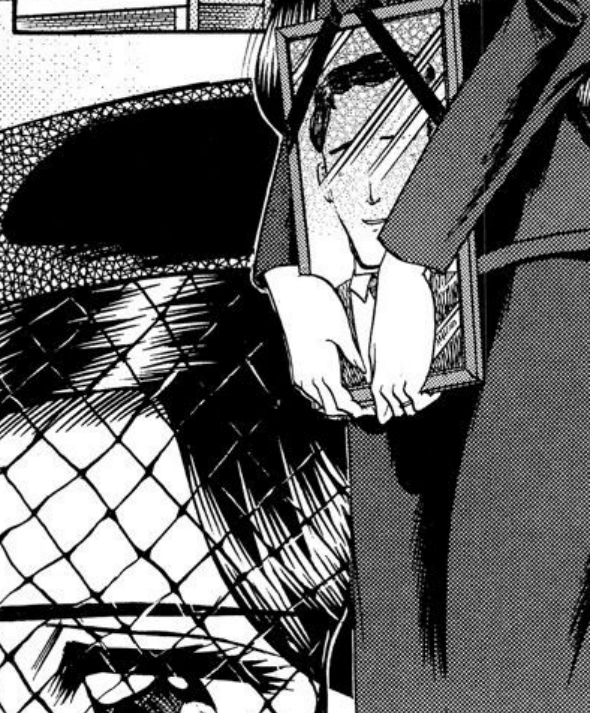
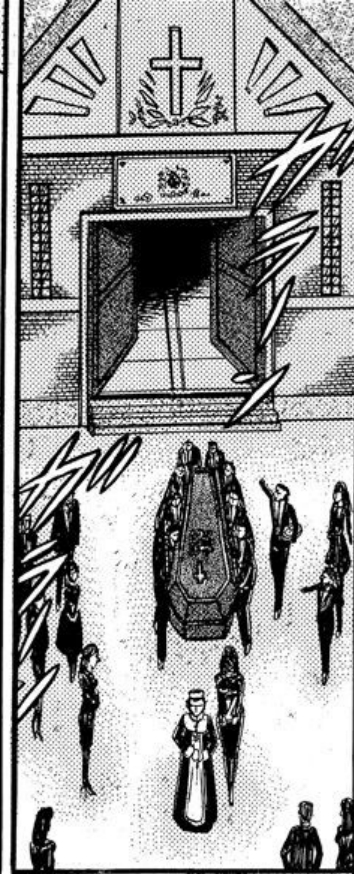
ははほら
いっしょに
いこう…それっ



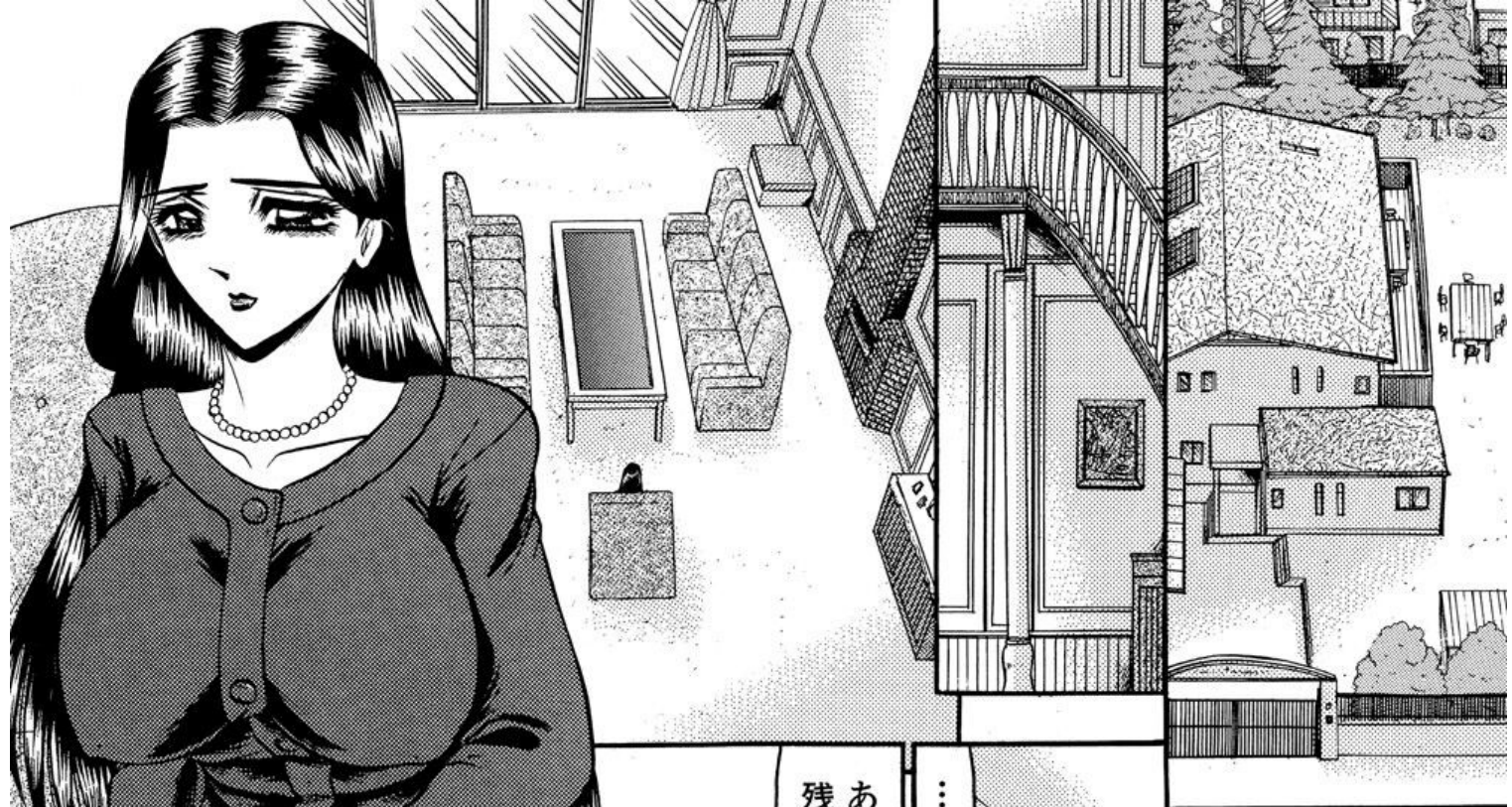
あはあいくいく〜

オマノコ
いんげん

◆END◆



良妻の末裔



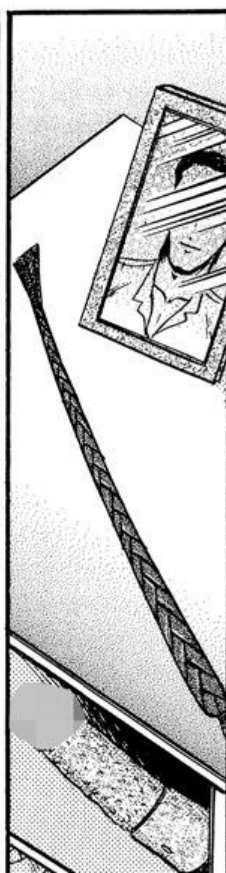
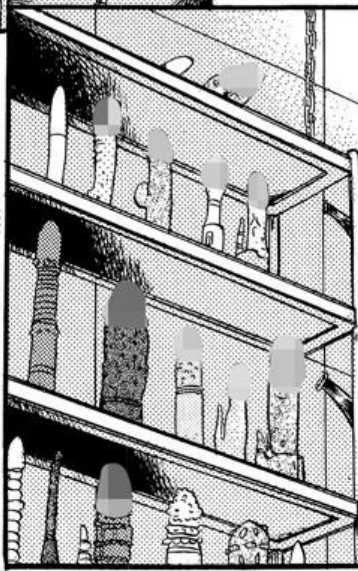
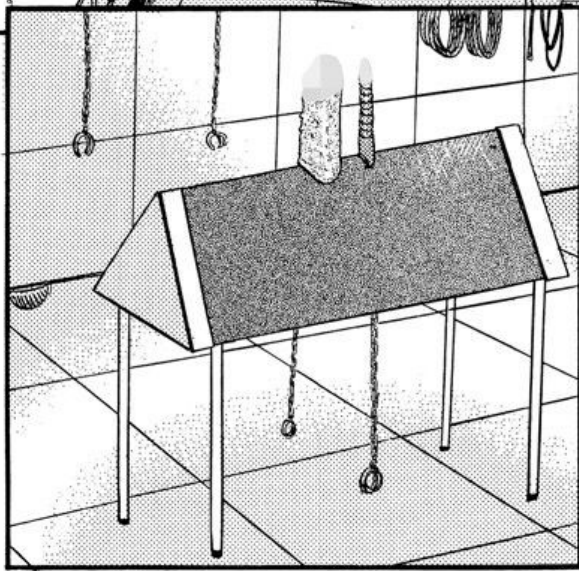
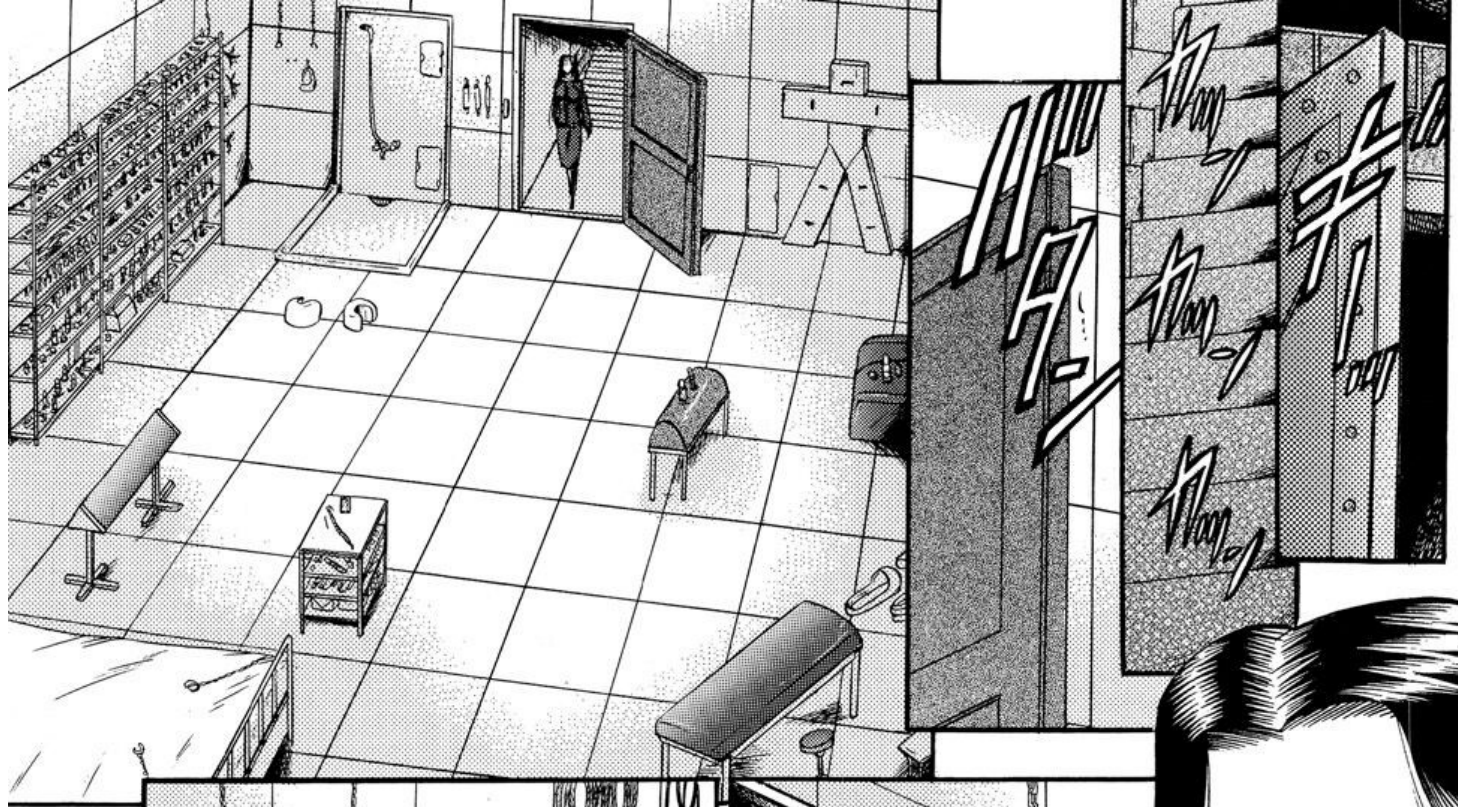
…あなた…
あなた…私一人を
残して…



あ…

…

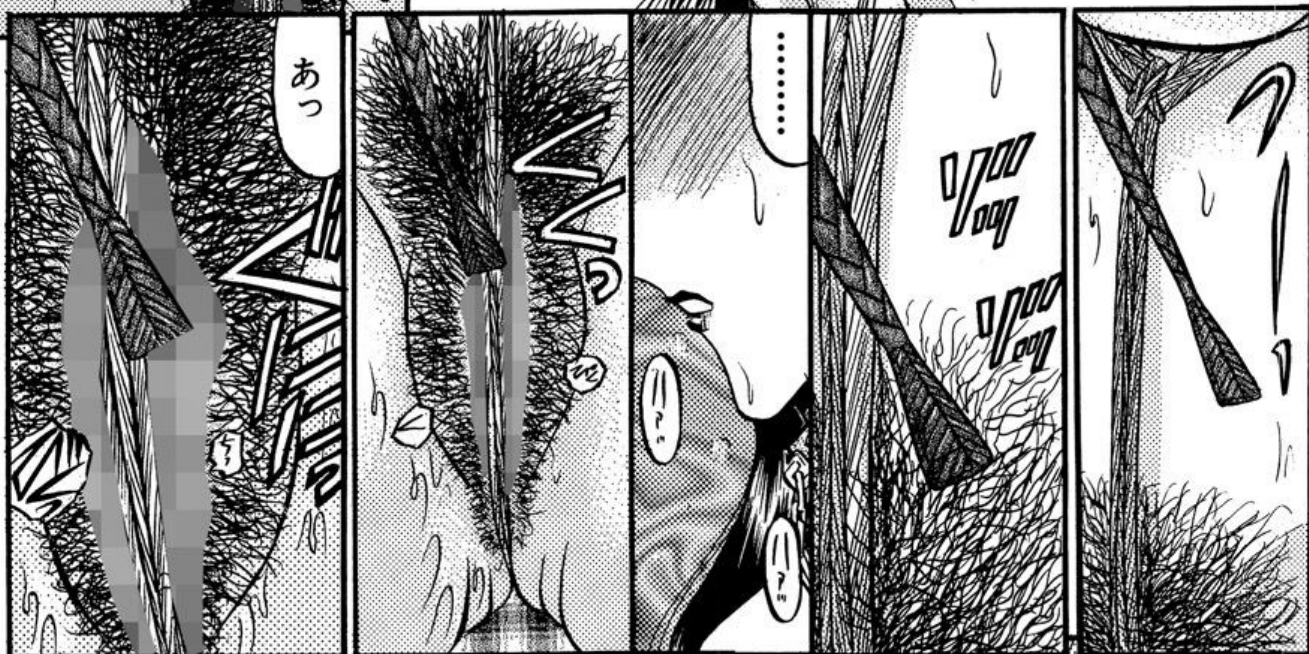
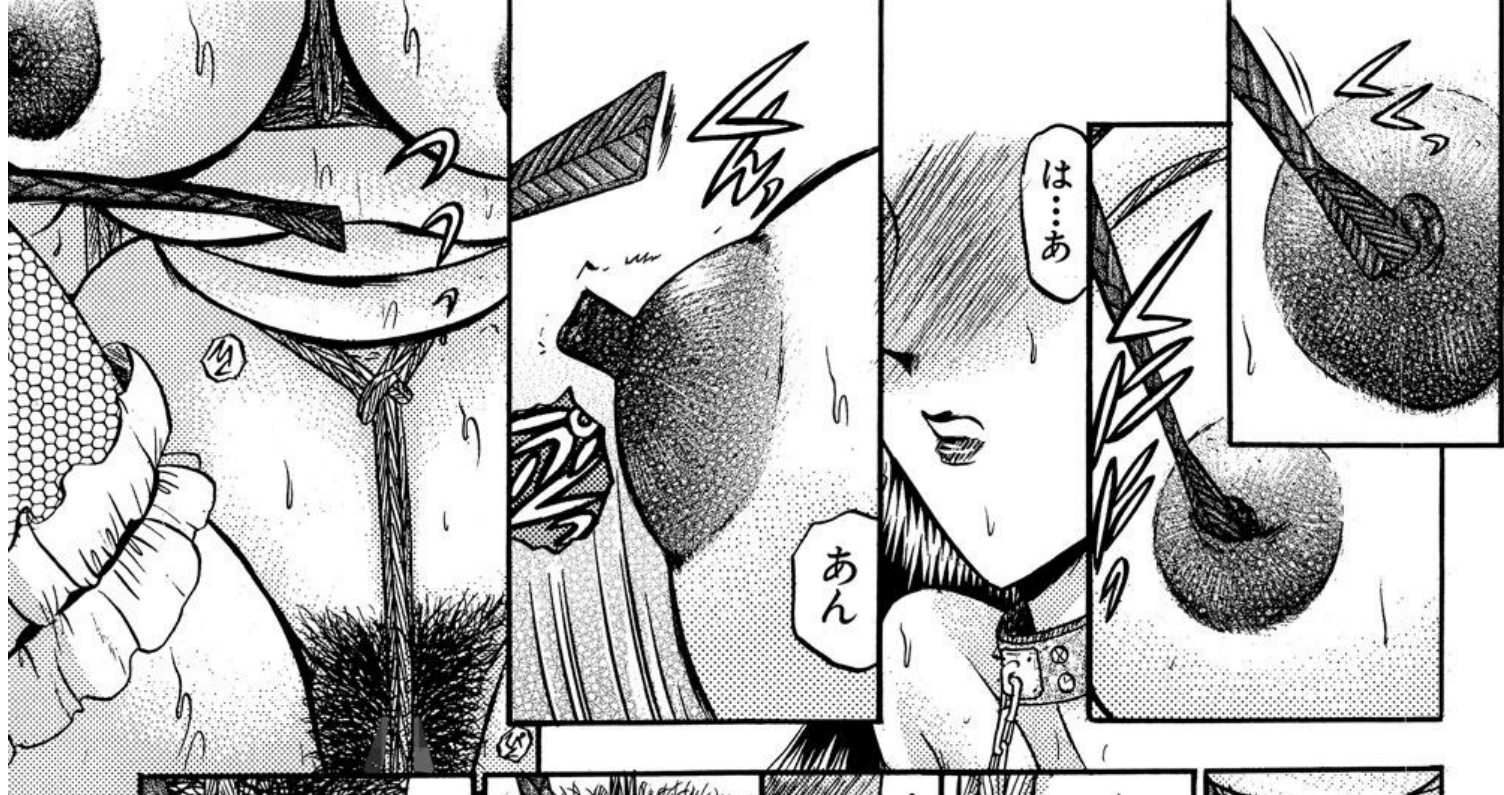
どうして…



あ……

あなた……







フッフ いいぞ
蛭子^{きみ}はどんどん
私好みに成長
している

あ...ああっ

ただひたすら
淫乱な—

私だけの
性奴にな—

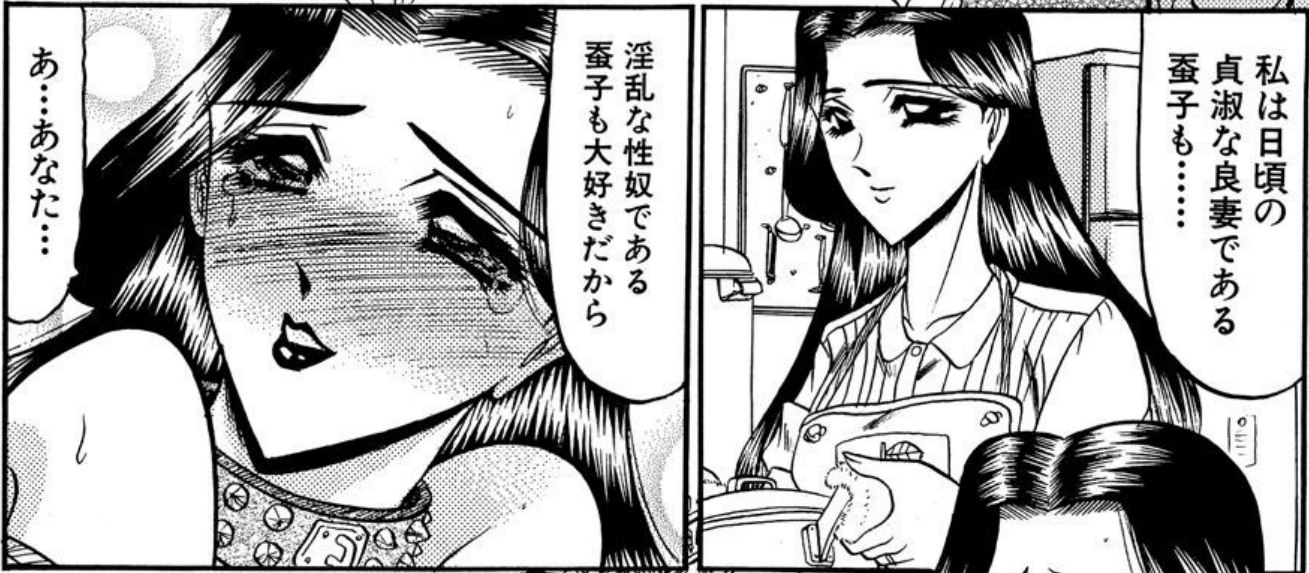
うっ

あ...ひっ

あああ—っ

フッフ
いったか蛭子

あっあっあ...





はあ



あ…は…ひっ
酷いですわ
あなた—



あ…



あああ…



こ…こんな—



んん



んっ

ああ何も
知らなかった
私を—

はあ

こんな体にしておいて――

はあ

あ――

ひああっ





かくかく

あああ私――

私――これから
どうしたら――



え!?



あ……

ああ――



へっへっへ

ああ構わない
続けてくれ……



はっ





——ならこんな
金にもならない家ごと
燃やしてやろうか

え

そしたら
保険金ぐらい
下りるだろう

あ……

あ……ゆ……許して
下さい……私……

私……
男性は……
夫しか……

はっはっそれはいい
早速他の男のも
試してみるといいさ

おい

へい兄貴

ズン
ズン







これならすぐ
使えそうだな

え？

あの……
それって……？

そらっ

え!?



あっ

へへへやっぱ
もう濡れてるぜ
奥さんもう我慢
できねえのかい

え……あ
そんな





あああ——っ

あがああ——っ

あ…や…ああ

ひっ ああ



ひっ
ああっ

ガヤガヤガヤ



ひっ



奥さん凄えよ
自分からこんな
腰を振ってさ

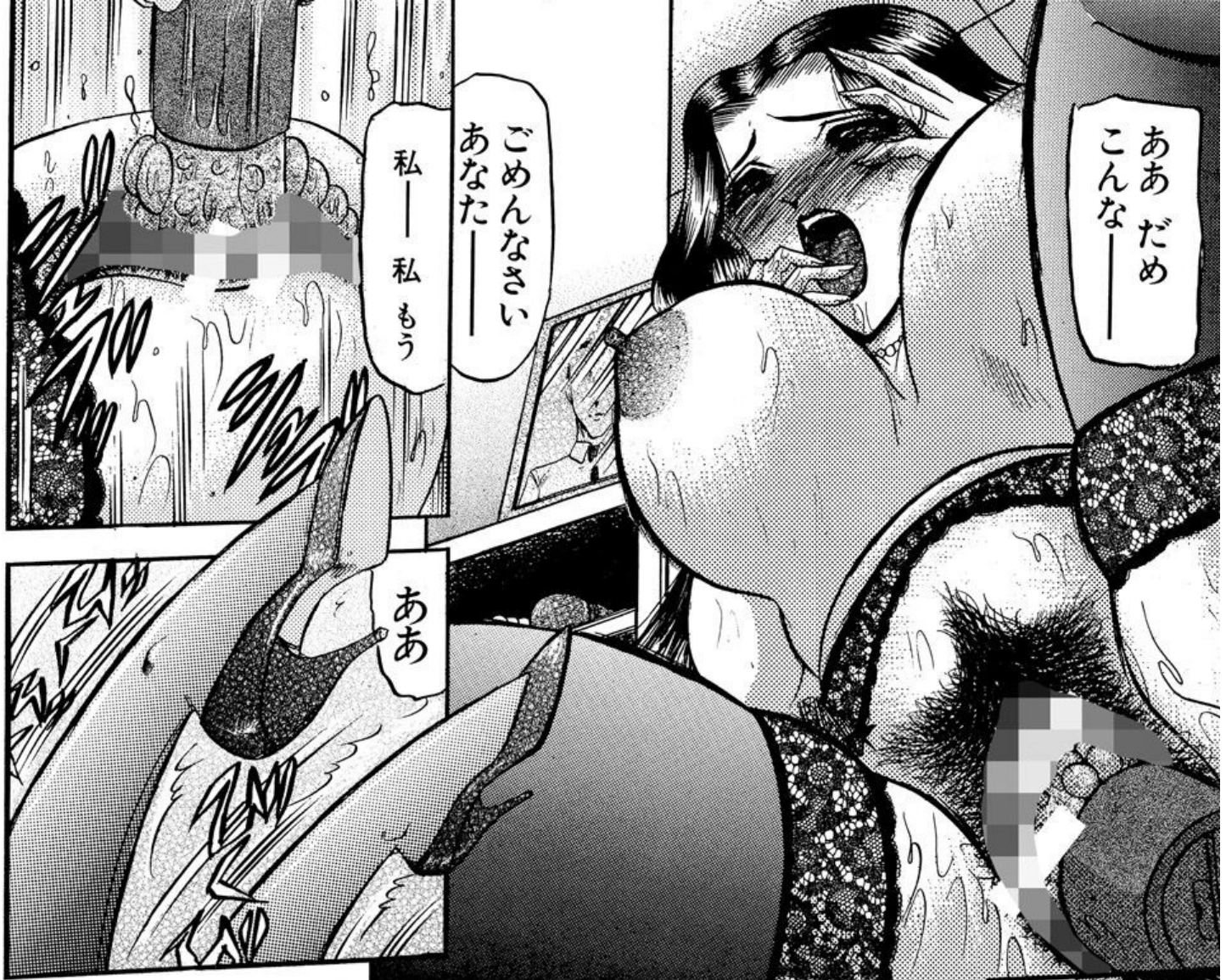
ああ



へへどうだ
たまらんだろ

ああつだめ
それは――





あつや…あ
も…もつとお

も…もつと
してえ〜っ

フフフ 奥さん
違いだろ

ぱくぱく

あんなバイブより
本物のチンポの方が
ずっといいだろ

あ…

あ…あ

欲しいだろ…
おねだりすれば
幾らでも犯して
やるぜ

う…

ああ…







そらこれで
上から――

あっ あああっ

あ…ひ
あああっ

こ…
こんな――

こんな
子宮に――





し…子宮に
とどく——っ

ああ…や…あ
こんな——っ

ひっあ…あ
死ぬ——っ



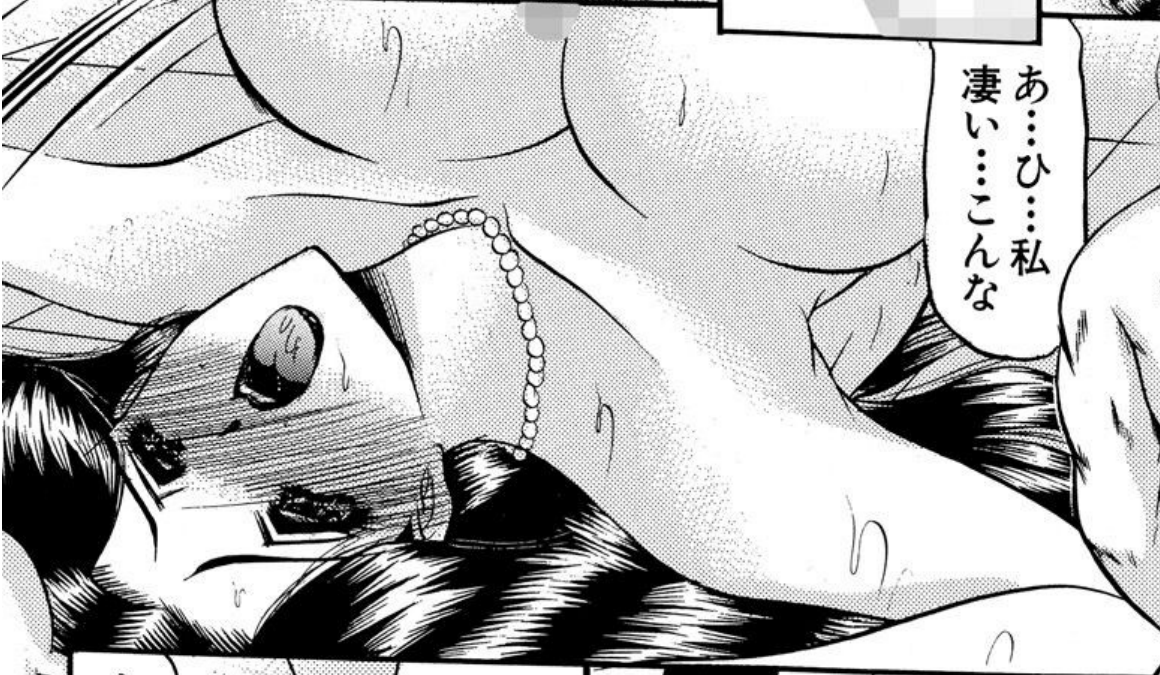


あつそんな



ひひひ

ああ



あ…ひ…私
凄い…こんな



ぐきぐき



あ……

これから
チンポ無しで
生きていけるか



フフフ こんな
凄い体をしてて
これからどうするんだ





あっはあ
好きいくっ



どうだ好きだろ
おチンポを—



あああやあ
そんな……



おチンポ
もっとしてえ
—っ

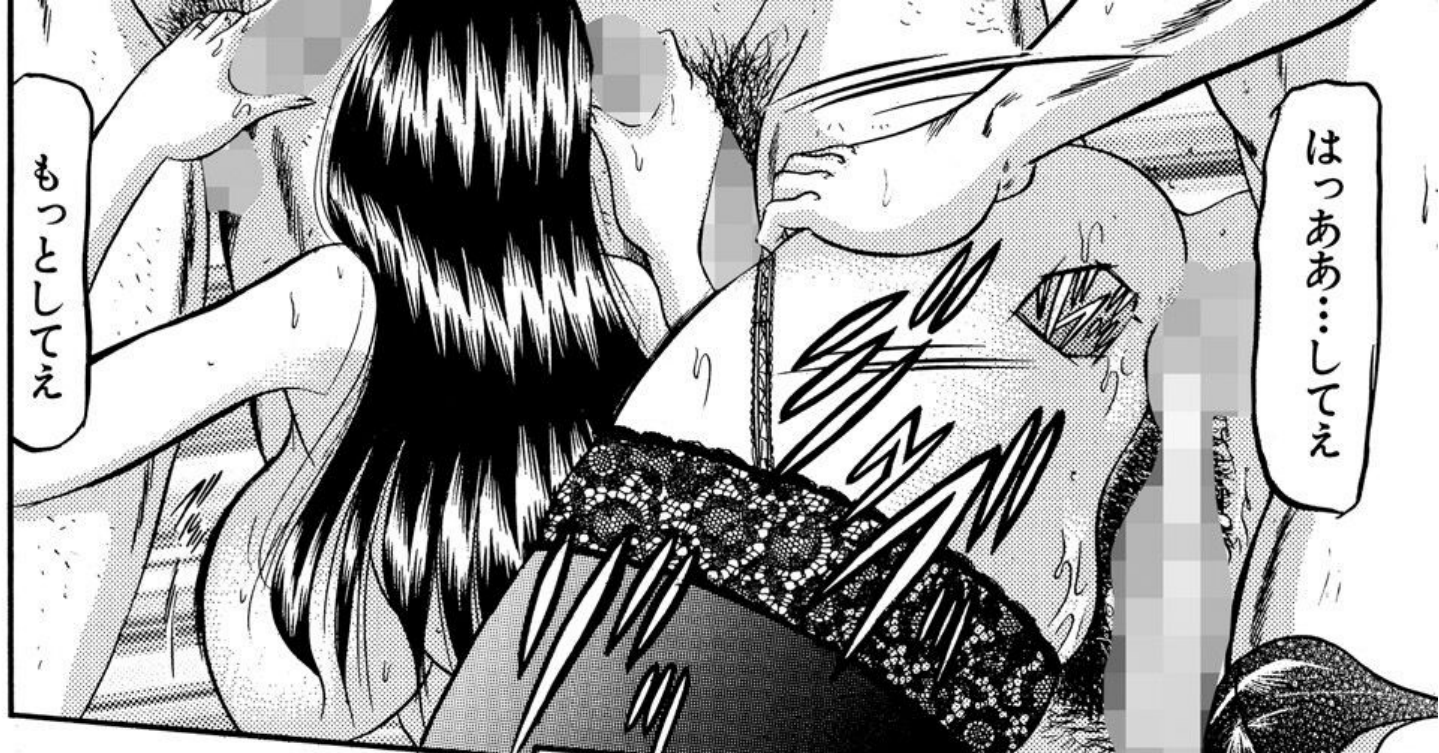
はああもっ



お…おチンポ



おチンポ
大好きい



はっああ…してえ

もっとしてえ



もっとおチンポで
犯して——っ

ひあ

あっ

ひっ

はああ

ああ——
おチンポおチンポ

おチンポ——っ





あ……

奥さん向きの
仕事だからな



奥さん
うちのこの
店で働きな

旦那の借金も返せるし
一日中チンポに
囲まれて暮らせる



……あ……
あは……

◆END◆



あ……私……



あ……あなた……



あ……

じゃあな
借金を残して
くれた旦那に
感謝するんだな



あ……は……は……

あああ

ああああ
もつと——

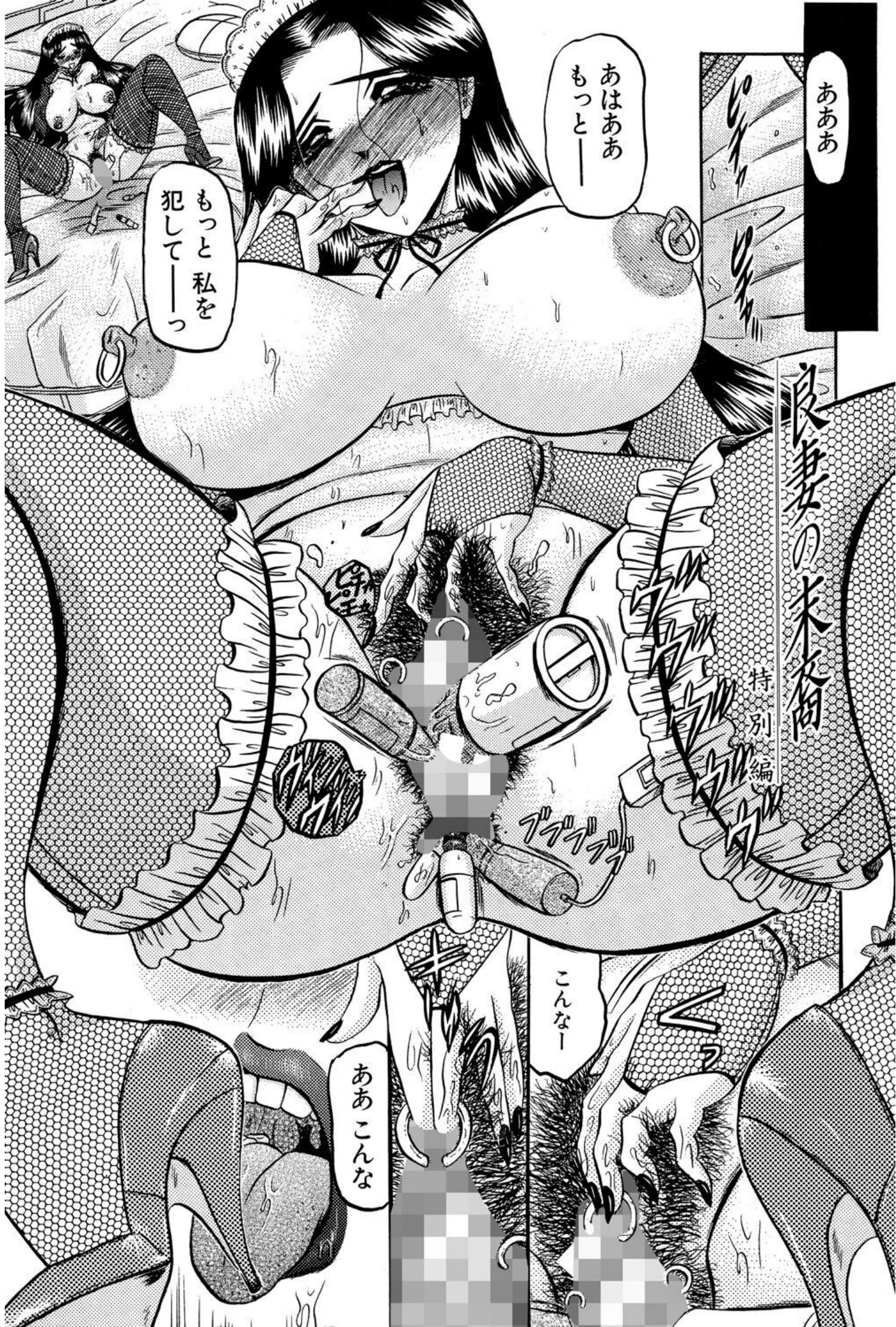
もつと私を
犯して——っ

良妻の米衣商

特別編

こんなー

ああこんな





だめのの〜

ああたりない

たりないの〜っ

あああ〜っ

オマンコも

お尻も〜



—そうか

まあ、それならそれで
売り方を変えれば
いいだろう

あの体と顔があれば
マニアックでも高く売れる…

—うむ…
まあ…

え？

いや、あれはあれで
本気で満足してるの
かもしれんな

死んだ旦那も彼女も

—見ろよ
幸せそうな
顔してるじゃ
ないか…

あはあく
オマンコく

オマンコ
もつと~~~~

◆END◆

華隷

2014年9月1日 電子書籍版発行

著 者 小邑紗希

発行所 株式会社 海王社

〒102-8405 東京都千代田区一番町29-6

海王社ホームページ

<http://www.kaiohsha.com>

©小邑紗希 / 海王社

本書の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、転載、改竄、上演、放送および公衆送信（インターネット上への掲載を含む）することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードなどの著作権保護技術を解除して行うことはできません。